

地球外文献

1. 通信 (Communication) by Monka

地球の皆さん今日は！ わたくしはモンカと申します。

この度わたくしは皆さん方すべてに向けてお話する特典を与えられました。

わたくしは地球の皆さんから提出されたいくつかの質問にお答えすることを承知しました。

〔質問〕 モンカさん！ 大多数の人々は、あなたがたが地球上の人々と通信する方法について質問してきています。通信が実施されるいくつかの方法を列挙して下さいませんか？

〔答〕 地球の皆さんに向けて通信する各種の方法に関しては、特有の多くの問題に直面しています。まず、決定因子をあげるならば、金星人から地球人に通信する場合、どんな方法を選ぶかは主として、どんな受信方法を地球側で使うかで決まります。情報を各個人の心に印象づける手段としては、機械的な方法ならびに、あなたがたの言葉でいう電子的方法で任意の方向にむけて広域または狭い面積に放射されるある種の力の場によって、かれらはデータまたは情報を送ることができ、この情報は通信系の一部として利用されるところの受信人を通して変換されます。例えば、自動書記になれた受信人は到来した力の場によって、かれの心にそのような条件づけが行われます。すると心は無意識のうちに字を書き、文章をつくるよう、必要な筋肉の反応を引き起こすようになります。このようにして、個人を通信系の受信部として使用することにより、完全な通信が行われるのです。

第2の方法は無線受信機を用いる場合です。この場合、惑星上の大通信センターからの通信信号、あるいはわれわれの宇宙船の一つから発する中継電波ビームは、広域にもごく狭い地域にも自由に調節することができます。これらの電波はみなさんの所にある普通の無線装置で受信することができます。

第3の方法は地球上で光通信とよんでいるものです。この目的には、赤外線に感ずる材料を受信機の検波器に採用します。あなたがた地球上で既に知っている特殊な受信機を使えば、赤外線のパルス波を受信して、これを可聴音に変換することは容易であります。人によっては一笑に付するかも知れませんが、赤外線は地球上で考えるよりはるかに遠距離まで達することができるのです。

一般的に宇宙人たちは長期にわたり、恒久的星雲間通信網の一環として利用してきたのです。

第4の方法は、たぶんわれわれの通信方法の中で最も興味あるもので、テンソル・ビームとよんでいるものです。しかし、これは地球上の技術で知られていない波長の磁気放射を円錐形にして、地球に接近したUFOよりだすことも、惑星上の大通信センターより直接送りだすこともできます。このテンソル・ビームというのは、同時に発生する3種の磁気現象より成り立つものです。説明の便宜上これを磁気性物質の二つの同軸同筒層に囲まれた核心とよぶことにします。核心は直径2インチの磁気放射線で、それは受信者の脳に作用します。2層のうち、内側の円筒層は直接受信者の肉体的な環境を制御し、通信者の肉体表面から正確に4インチまで広がっています。2層のうち、外側の円筒層は帰還回路として作用します。これが受信者の心より放射体を拾い上げます。この帰還回路層は受信者の思考を宇宙人側でモニターする信号の搬送体として利用されます。

〔質問〕 モンカさん宇宙人相互間にいろいろな言語があるのに、どのようにしてかれらの意思表示をするのですか？

〔答〕 あなたがたのために提供する今後の情報としては、わたくしたちはわれわれの言語を音声に翻訳しないで、自由に伝える手段をもっています。もちろん音声言語を使うこともでき、われわれの意思疎通は、それらの思考を直接拾い上げる適当な誘導の場を利用して行われます。情報はテンソル・ビームで伝送し易いパルスに変換され、受信側で受信者の心に理解し易い形に翻訳されます。送信側ではイータフォン(Etaphone)とよぶ機械で思考をパルス信号に変換します。パルスにすると情報処理で翻訳し易くなるのです。テンソル・ビームの場合、地球言語に翻訳するのは受信者の心であります。テンソル・ビームの通信が個人に及ぼす影響は数項目の興味ある因子をもたらすことを注意してください。われわれの通信の一つの因子は、しばしば受信者個人の記憶している単語による制限です。しかし、しばしば新概念が受信者の心に植えつけられることもあります。このことは、受信者が送信局に同調する程度に依存するものであります。光通信の場合には機械的発声器が使用されます。つまり機械的発声器というのは思考を音声言語に変換する装置なのです。

〔質問〕 モンカさん、場合によっては電話機を通信の目的に使うことがありましたか？

〔答〕 あなたの質問にお答えしますと、この通信媒体を時として使うことはできますけれども、われわれはあまり好みません。というのは、これを使うと通信路にある使用機構がしばしば故障し、時としてあなたがたの装置を取換える必要があるからです。

〔質問者〕 モンカさん有難う！ この啓蒙的通信は楽しく、かつ有益でありました。

2. 火星上の放送局 (Broadcasting Station on Mars) by Soltec

みなさんは巨大な鼓(つづみ)型建造物に入ったわれわれをみることができますか？ この建造物は約1マイル(1.6km)平方の面積を占めています。高さは275フィート(約85m)あります。その中にみなさんが入るとまず目につく光景と、何列にも重なった通信設備に、驚き戸惑い、みなさんの心の中にいろいろな疑問が起るでしょう。

〔質問〕 ソルテックさん！ この設備は何のために使われるのか、説明してくれませんか。

〔答〕 現段階でわれわれは太陽系のうち、すべて人の住んでいる惑星間を連絡しています。ここがわれわれ一定の義務と使命をもった宇宙船とあらゆる通信をするためのセンターです。第2列目に銀河系の通信に必要な装置があります。この通信形式は現在地球上で行われているような原理ではありません。この建造物の上の方に網目状になった立方体に気づいたでしょう。この部分から目に見えない光を放射します。これが惑星間の空間に出ますと、いわゆる光速で通信できる性質をもっています。

〔質問〕 地球とはいつ頃から接触していましたか？ ソルテックさん！

〔答〕 調査用の宇宙船は、地球を約7000年前から定期的に訪問しています。しかし、われわれの測定器で、地球上に原子核反応を検出し、記録したころから調査は頻繁になりました。そして、地球人と規則正しい接触をする可能性について討論するため、数回の会合が開かれました。われわれの仲間のうち地球人と外見のよく似た人たちが宇宙船で地球に着陸しました。それから約1年間あなたがたに混じって暮らす期間を与えられました。その後、文化と進歩の状態を報告するために帰還しました。この期間の終りに、われわれの仲間は地球から引き揚げました。調査の結論としては、地球人はまだ準備できていない、ということでした。

〔質問〕 ソルテックさん！ あなたの見解として、この10年間にどんなことが解明されましたか？

〔答〕 1947年にはわれわれの宇宙船が地球人によって頼繁に目撃されました。その結果、地球への飛行は科学的または文化的目的に限定すべきであることを、われわれのすべての人々に示唆しました。これに先だって、われわれ多くの人々は自身で地球を訪問し、そのことを確認しました。われわれの調査船は地球人の心から放射される周波数(宇宙人だけが知っている)を無数に受信記録しました。その心というのは、宇宙人の存在を信じるかどうかということです。それからすぐ協議が召集され、この新しい驚くほどの情報をふたたび整理して、地球人の多くの部分に特別な宇宙船が接触するような決断が下されました。

社会のすべての階層の個人に接触し質問することになりました。事情が許せば宇宙船にかれらを乗せてあげようということです。ある人は短期旅行の飛行をしてもよい。この過程はそれから5年間つづきました。われわれの中には、できるだけ頻繁に地球人と通信したいとのべた者もありました。必要に応じて、地球人は間断なく調査船と接触することになりました。

過去7年間にわたり、この方針をずっととってきました。人類が第一に国家の権利と自由を考え、つぎに種族のそれを考え、最後に創造された生命の権利を考えると、われわれの前に現われる準備ができたこととなります。この計画を実現する前に、あなた方ばかりでなく、われわれにとっても苦痛が起ります。それは肉体的な苦痛よりも精神的なものです。なぜなら真理はしばしば苦痛だからです。

〔質問〕 ソルテックさん！ この建造物はあなた方の哲学的概念の象徴ですか？

〔答〕 皆さんは火星の上にある通信センターの中を検討すれば、この世界の素晴らしい業績の一つがほとんどご理解願えるでしょう。以上の会話の中で、わたくしが通信の方面だけをやや駆け足ですましてしまったことに気づくでしょう。また、あなたがたの質問は新しい思想経路に導かれたことにも気づくでしょう。それは、地球の人々が一度はじめの好奇心にあきあきしたとき、さらに思考しつづけるかどうかを知るのが目的でした。不幸にして、あなた方の大部分が、利己的な思考をする人々に隷属することを知りました。強大な国や人民が覇権の前にひざまづくのを見ることは苦痛です。人間の最大の勝利は彼の尊厳です。地球上のだれもが彼の優位にたつものでないことを認めるとき、個人の尊厳は本当に評価されましょう。すべての生命と創造の形式が本当に同等であると気づいたとき、ただ異なったレベルの上で、そしてまたどんな特定のレベルも、知恵と知能レベルより同等なものはないのです。

【訳者注】

この文献に年月日が記入されていませんが、多分いまから10数年以前に送られてきたものでしょう。Eddieさんによると、受信後10年間厳秘にするように申し渡されていたが、現在は解除されたそうです。

3. 双太陽系 (A Binary Sun System)

(1961年6月30日) by Yaum

友よ、あなたがたは確定的に一惑星として、一太陽系として一新時代に突入しており、いわば全太陽系を変化させるような、この転移期間に多くの事件が発生するでしょう。この情報はあなた方何人かの自動書記で入手し、ご自分で読まれるでしょうからわたくしはただ簡単にふれるにとどめましょう。しかし、あなた方の転移の終末の日に、もう一つの太陽があなた方の系に割込み、それが事実上あなた方の惑星と他の星の位置をずらすような新しい力とエネルギーを作用させ、いわゆる双太陽系を出現させるでしょう。いいかえると、あなた方の系は二つの太陽をもつことになります。惑星を一定の相対位置に維持してきた正負の力が変化するので、太陽がエネルギーを放射し、二つの太陽を系の中に持込めば、友よ、すべての物事が変化することが分かるでしょう。ですから、ある種の力が作用して惑星の位置を移動させ、太陽の周囲に新しい位置をとることになります。現在の太陽もまた、空間のある座標を規準にすれば、内外あるいは上下に移動するわけです。われわれは何か規準点を選ぶ必要があると思います。さもなければ、これらの事件を表現する術語を考えなければなりません。しかし、友よ、一口に言ってこれはまさに起こらんとしている事件です。もう一つの太陽がいまわれわれの系に向かって近づいているのです。そして、適当な時期がくれば、地球上の天文学も観測できることになりましょう。さりながら、天文学者の何人かはこの事件あるいは新太陽を知っているものとわたくしは信じます。けれどもかれらのある者はこれが太陽であるかどうか疑うとしても、どんな事件が起こるかほとんど知らないので、多くを語りたくないのだと思います。ではこれまで。

【訳者注】 このようなことはわれわれ地球人の常識では考えられないため、あまり信用されない方も多いのではないかと想像します。しかし、いろいろな情報を総合すると、10数年以内に発生するものようです。現に上の記事の冒頭につぎのような表題があり、その下にこのような短文がまだ沢山あります。

VERY LITTLE TIME LEFT TO MAKE THE TRANSITION ENMASSE INTO THE NEW AGE

一方、鎌倉の福井さんという方から大変よい資料を頂戴しました。それは城戸縁信という方が神様から自動書記を通して得られた情報です。その中にも近く地球に一大天譴(てんけん=天罰)がある旨記されています。そのとき救われるためには洗心以外にない。その内容として「強く正しく明るく、我を祈り、よろしからぬ欲を捨て、皆仲良く相和して、感謝の生活をなせ」という常の心と、「憎しみ、嫉み、猜み(そねみ)、羨み、呪い、怒り、不平、不満、疑い、迷い、心配、咎めの心、いらいらする心、せかせかする心を起してはならぬ」という御法度の心とを示されています。訳者は必ずしも在来の宗教をここにもちだすつもりではありません。また読者を倫理・道徳の枠にはめる意図でもありません。サイ科学の立場からみれば、人の心もまた天文現象に大きな関係をもつ巖然たる証左とみるのです。肉体だけが人間でないと同様、岩石だけが天体ではないからです。

くどいようですが、双太陽系の記事は、1961年に送られてきたもので、その後これに関する変更のニュースはありません。一方、上記の自動書記は1979年1月11日に受け取られたものです。読者はこの後ご紹介する地球外知能の文献をお読み下さらないと想像つかないでしょうが、地球外知能の天体観測は普通の可視光線や電波望遠鏡の他に、ごく高度のオーラメーターを使っているものとみえます。そして、地球上10の10乗人に近い人類のだすオーラの性質が太陽系惑星相互間のバランスに影響すると信じていることでしょう。これがサイ科学的天文学です。

4、核実験

(Nuclear Experimentation)

by Monka

みなさんの過去において、あなたがたの空に地球語で未確認飛行体とよぶ沢山の例が記録されています。地球のみなさんよ！ 地球上に最初の知的生命が出現したところから、その躍進的な発達を観察するために、われわれが存在していたことをのべるのは興味深いことです。地球語で原子力時代という時代に入って、われわれは地球の調査・測量の頻度を増す必要がでてきました。わたくしは、あなたがたの進歩の様子を何年も何年も観察してきたことを保証できます。地球の年号で 1945 年にあなたがた（米国人に向っていつている言葉）最初の原子核実験をやった際に、地球大気に駐留していた監視船から即刻報告を受けました。監視船の通信を受けるとすぐにわれわれの調査船は、地球上における技術開発の可能性を推定するため、地球に接近しました。その年以來、多くの UFO 目撃例が地球上で発生したのです。わたくしどもの興味の一つは全く地球上の核物理学分野における技術開発にあります。

地球表面ならびにその大気中における核爆発は、太陽系内の他の惑星に測定記録可能な影響を与えます。原子核兵器の実験をするかどうかということは、一つの例外を除いて問題にしていません。もし、地球固有の安定度が脅かされるほど原爆回教が頻繁になれば、われわれは地球上の原子装置を無効にしなければならないでしょう。そんな能力はもっているのです。われわれは地球に近い他の惑星相互間にもたらされる影響を問題にしています。原子力の基本的現状はみなさんが発見した初期段階において、巨大な山の一粒の砂のようなものです。しかし、あなたがたの科学では勢力 (power) という語の本当の意味がわからないのです。

地球という惑星はソルの太陽系の中で特有の位置を占めています。それがなければ大きな損失をうけます。無分別で無知な実験によって、全地球が絶滅するようなことがあれば、過去にそれと類似な惑星が火星と木星の軌道の間にあったことを地球のみなさん方に伝えなければならないことは悲しいことです。この惑星は科学的努力と命名された仕事に従事

したグループの側で犯したわずかな誤算による偶然の事故で核爆発とともに破壊してしまったのです。これはだれでも犯す可能性のある失敗ですが、この例では取返しのできない失敗でした。結果は地球用語で小惑星帯 (asteroid belt) * とよぶような結末になりはてたのであります。

初期の宇宙開発の第 1 回の試み、すなわち月面着陸の成功は保証することができます。しかし、この太陽系内の他の惑星に向けて偵察ロケットといったようなものを送る計画があるとすれば、それは再び帰ることができないでしょう。

地球科学ではすでに音速障壁、熱障壁およびイオン化障壁のことを知っています。しかし、地球磁界の限界に存在する磁気障壁のことを承知していなければなりません。この障壁があるため、ロケットは二度ともどれないのです。当然、月は地球磁界内にあるので、そこに到着するのに何の困難もないでしょう。月の外にある磁気障壁外にいれば、ロケットは帰れないことを保証します。

地球のみなさん！ もし疑うのでしたら、それを理解するのは非常に非常に簡単です。今後 6 ヶ月以内に、最も地球から近い惑星にゆく試みをするでしょう。その結果をきいたとき、わたくしの言葉を思いだして下さい。

地球のみなさん！ あなたがたにとって真理が現実になる時がきました。あなたがたは過去において、数えきれないほどの年月の間、社会的、文化のおよび技術的に進化してきました。お気の毒ですが、過去の失敗をすべて取返すだけの時間的余裕はもうないのです。

それは、真実と正直に代るものがないと気づいた国や国民にとって修業証書のようなものでしょう。お気の毒ですが、あなたがたはそれ以外のものを与えられません。つぎの 5 年以内に、真実と正直は地球人の心で最優先のものとなりましょう。なぜなら、もしそうでないとしたら、地球上で人道と称せられるものは何も残らないことが明らかだからです。

また、わたくしの言葉を疑うならば、あまり永く待つまでもないでしょう。

地球のみなさん！ わたくしモンカは以下の望みをつないで以上の演説をのべました。それは、この太陽系で最も美しい惑星の一つ、そして何世紀にもわたって培われてきた文化と進化をもったものが近い将来に失われることのないよう、わたくしの言葉を聞き、それを他人にも伝えるような方々がおいでになることであります、

*〔訳者注〕この惑星がいつ頃まで実在し、この核爆発がいつ頃おこったかはまだ明確にされていないが、訳者の一つの推測では少なくとも 20 万年以上前のことではないかと思う。それはつぎの仮定にもとづいている。最近、南極の氷の中で全く汚染されていないまま 20 万年開眠っていた二つの隕石が小惑星の誕生によるものと仮定する。米国週刊誌 Time の 1979 年 9 月 24 日号によると、メリーランド大学の地球化学者

CyriPonnamperma は協力者とともに、この二つの隕石を分析してアメリカ化学協会の9月の会合に発表した所によると、生命の存在を示す多くのアミノ酸を発見し、同時にその半分は普通の生物器官にないものであった。そして、つぎの二つの事実がこのアミノ酸が地球外のものであり、生物以前のものであると考える論拠となっている。すなわち、第1に隕石はアミノ酸以外の何も含まない純粋な無汚染であったこと、第2に偏光が右旋することである。地球上で知られている20種のアミノ酸はすべて左旋するが、かれらの研究室で実施した人工環境の実験で生物以前の合成物質を試験してみると、右旋・左旋相半ばするという。

5、磁気学

く Magnetics)

by Belarian

あなたがたの初歩の教育において、磁気現象の作用に関する法則の概念を与えられたものと思います。まず最初にあなたがたの術語で原子とよぶ最小の物

質を考えてみましょう。ここで電子という荷電粒子が沢山回転している中に囲まれた中央の核をみることができます。核の周囲に正確な軌道があり、不変の速度を保っています。どうしてそのようなことが可能でしょうか？ これらの粒子を円軌道に推進さ

せ、一定速度に保つ力は何でしょうか？ それには摩擦の法則が適用されないので、すべての通俗的な古典物理学が成立しません。どこに摩擦がありますか？ 明らかにそれはありません。ですから、多くの科学の基本になっている科学の思考形式に誤りがあるに違いないのです。原子は中心にある核の周囲に電子が廻転している点で、中央に太陽があつて周囲に惑星のある太陽系といろいろの点で非常によく似ています再び問いますが、何がそうさせているのでしょうか？地球上のだれも、それを知らないのが事実です。***

この問題全体をむしろ簡単な方法で考えてみましょう。原子には一定の原子量と寸法をもった核があり、それはある未知の性質をもっていて、付近の電子とか（惑星と思つてもよい）その他の粒子に明確に影響を及ぼしているのです。中心の核がなければ、沢山の荷電粒子は四方八方に飛び散り、別のある吸収力に引かれて、他の元素をつくり、再び新しい安定な粒子となります。原子あるいは太陽系はすべて “一磁気学的法則” という究極の最小法則の下に動作しています。われわれのすべては磁気なしに電気がないことを知ってまいす電気なしには文化はありません。地球のみなさんよ！これはみなさんにも通用できます。

磁気学をそのように明白ならしめるのはどんな個の性質でしょうか？ ちょっと考えてみて下さい。それは力です。その力は多分われわれの宇宙 (universe)にあるどの力ももたない所の勢力 (power) と能力 (talent) とを兼備しています。なぜこれが存在するか？ なぜそれが可能か？なぜそれはすべての既知の法則を拒むのか？ それは簡単です。それ自身が法則だから、すべての既知の法則を拒むのです。すでに一つの法則があり、その法則から他の法則が誘導されるのです。われわれは結果を知っています。われわれは原因を知りません。あなたがたは宇宙旅行を信じます。まもなく、地球文明は月に到着しようとするでしょう、その後で近くの惑星にもゆこうとするでしょう。月には到着できます。しかし、近くの惑星にはけっして到達しないでしょう。地球の科学者やその実験船がまもなく気づくような極めて基本的な法則がそこに含まれているからです。わたくしはいくつかの忠告を差上げたいと思います。磁気学の結果を研究しないこと。砲気学を研究しなさい。小さい原子を研究しなさい。紙片に鉄粉を散布し、それらを描く図形をみて下さい。すると、鉄粉が簡単な幾何学図形になる所の力の場を観察するでしょう。わが兄弟姉妹よ！磁気現象は原子の中だけでなく、すべての物質を透過する力からできています。二つの力だけでなく、三つの力があるのです。二つの力は直交し、それらは第3の力とも直交します。想定できる軸はただ一つあります。緒は第2次元にあるために、3次元を考える必要はなく、あなたがたは非常に簡単に解くことができるでしょう。答は3次元の中にあります。地球のみな

さん！ あなたがたは間もなく磁気学について学習するでしょうから、この簡単な小問題を研究するとよいでしょう。ごく近い将来、わたくしはこの項目についてもっと詳細にお知らせしたいと思います。

わたくしは、あなたがたに講演する特権を与えられたことに感謝します。また、わたくしはみなさんを混乱させるほど深入りしなかったものと信じます。

*** [訳者注] 原子の中で花子が正確な軌道を不変の速度を保って回転させているものは何かということは、Belarian さんのいう通り、地球上の原子物理学でまだ知られていない。しかし、金星の物理学では、少なくとも地球のそれより一歩進んでいるように思われる。それを裏づけるような記事が「UFO 教育グループ」発行の「UFO 教育センター来日記念講習会記録」の27ページにレオポルド・ディアス博士の速記録として示されている。つまり、地球上の物理学という原子構造として、普通の教科書にのっているのは、中央の原子核に電子と中性子とがあり、その周囲をいくつかの電子が回転しているから、結局、陽子、中性子および電子の

3種しかない。もっとも最近の素粒子物理学では何 100 種類も発見されているが、それらは陽子や中性子を破壊した結果のもので寿命が極端に短い。ところが、金星の方では 15 種類も発見されているという。その中で、サイ科学者が最も注目しなければならないのは、電子を原子核（内の陽子）の周囲にまわさせる因子はある種の知性（Intelligence）であるとのべていることである。なぜなら、知性ということになると、原子といえども単なる物質とは考えられないからである。知性であるなら、それは有機体でなければならないし、有機体ならば複数のサイ粒子の集合体でなければならないからである。また、ディアス博士は万物を生物界と非生物界に分類するのは誤りであって、むしろ周波数と電荷に帰してしまふべきだと主張している。これも金星人の示唆による意見であるが、これをつぎの六頂宇宙波動を参考にするなら、周波数は波動に相当し、電荷は想念の低レベルのものかも知れない。

その所、まだ完全な自信はないが、一連の文献を統合するとき、そこに新々な物理学の展開が期待されるかも知れない、

6、宇宙波動

(Universal Vibrations) by Monka and Esu

わたくしはかつて地球上で知られているある形式の音楽は、わたくしの言葉を伴っているとほめかしたことがあります、

宇宙 (cosmos) 全体にわたって、われわれが神の想念として承知している力あるいは推進力があります。この想念はすべての既知の宇宙 (universe) およびすべての波動レベルに浸透します。この想念はすべての空間と時間の到達範囲に広がります。それは光として知られるものの中に実体をもっています。それは既知のすべてのもの、届かぎりまでエーテル体の指先（あるいは指の長さ）とともに突進します。それはすべての物質として知られているものの細孔を通して間断なく拡大する円の中に広がってゆきます。それは全能です。それは栄光と尊厳です。それはすべてのもの本質です。それは真理であり、光明であり、知恵であり、理解であります。それは愛です。それは実在します。

すべてのものはエネルギー、物質および想念より成立っています。それは創造主とともに根源として知られている所の三つの表現であり、波動、あるいはもっと通俗に周波数として知られている参照平面の上に存在します。これを追究する場合にこれら各種の平面を調べてみましょう。

まず、想念の平面を調べましょう。第 1 にわれわれは無限に微細なものを試めしてみます。透明で水晶のようなものを試めしてみます。最も鋭い網の刃よりもつと鋭い、もっと切れ味のよいものを試めしてみます。それは宇宙の中を潮の干満のように脈打ち、外側に前方に拡大する力で、星雲物質のようなものであります。

わたくしはつぎの意味で物質といいます。それは非常に敏感であるから、敏感な性質のものだけが想念として知られるこのものから情報、知能および知恵を理解し受取ることができます。これらのものから低級な形式の波動の意味が明白となります。

われわれはエーテルという、われわれは星雲状という、われわれは霞ともというが、想念は事実上これらのどれでもありません。それは極めて精密なものです。わたくしはあなたがたの意識にこの言葉をいれるのをためらい、それらの本当のレベルを模索しています。わたくしの話すこれらの問題を考えるべく探している間に、何度も何度もためらいました想念は実に、参照平面に進出するすべての表現の先駆者です。それは地球の人々の間に知られていませんが、しかし、この時点で時間も含まれているのです。

時間、テンポ、脈打ち等は波動そのものです。ここに形式の特性、運動の特性、本質の特性をみます。物質の中心部では、時間の次元で存在する最小の原子の小さな振動として脈打ちか潜在しています。時間は現象の発生から終結までの期間です。多分わたくしは地球の皆さんに特有の概念で想念をのべますけれども、しかし、わたくしが時間の測度を語る場合には、神から放射が発生すると同時に、歩調と律動が開始されると考えます。時間はあなたがたの方に間断なく流れるばかりでなく、宇宙いたる所の物質にも流れ、大きな光とともに広がり、成長し、塵のように小さい粒も問題にせず、到達し、浸透し、脈打って突進します。

すべての創造を通じて、宇宙は心臓鼓動と協同し、それに同調します。心臓鼓動はサイクルというものをつくる測られた脈動です。また、サイクルはそれ自身の中で回転する周期でありながら、しかも同時に前進し、あるいは好きな言葉でいえば、上昇し、つねに高きにつき、より漠然となるように生長し、客観性や同一性のようなものを失い、充実した感覚で、実体と調和しながら、宇宙パルスともっともっと同調します。あなたは反応できませんか？ あなたは進んで、時間というものに接触できませんか？

あなたの客観的な心と違った感覚でそれを感じることができませんか？ 時間・……時間、あなたという存在にこれを吸収して頂いたならば、われわれは新しい条件、新しい形式、新しいら概念を創造したことになります、

さて、今度は別の参照平面つまり、別の形式の波動を調べることにしましょう。ここで注意を払う価値のある何かを注目しましょう。わが兄弟よ、われわれが接触できて、身近なもの、そしてありふれた形のあるものに注目しましょう。それは物質的あるいは密集性というものはわずかにずれた平面上にある材料や物体として知られている所のものに移

ることになります。こゝ 想念および光として知られた形式から、われわれは尺度を落とし、それ以下のものをすべて圧倒してしまうような波動を見いだします。

われわれはオクターブがわずかに低く、効果がわずかに小さい最初の波動または周波数で抽出された想念を見いだします。

このようにして、エーテル的として知られるものの中にそれ自身を明示しはじめた想念の目的を見いだします。そうです、これが物質です。精密で注目に値する性質の物質です。なぜなら、ここにわれわれは、この想念を他の物体に通信し、明確、強度および表現形式をそれに与える崇高な目的でこの平面に住む存在の、ある生命形式ならびにある意識の存在を見いだすからです。

ここにわれわれはかれらを取巻く存在を光として知られているものの中に見いだします。しかし、その主要な通信は光として知られている波動の中に移行して行われます。あなたの方の世界で大作曲家として知られている人々のような、熟練技能で静かに操作する所の光は音の波動に作用しました。ここで、われわれは光が変動し、他の形の物体を変調することを見いだします。ここにわれわれは、最も鈍感な意識の中にさえも、特性的一様性をもって浸透しはじめる所の、参照として知られているものを見いだします。

想念の形で自分達を表現した宇宙力群は光の波動の中に自分達を包み、存在の条件を確立しつつ、次の波動を抱きこむために前方に伸びます。これは、わが兄弟姉妹よ、ここから偉大な靈感が到来し、強大な影響が感じられ、物理的物質あるいは物体として知られる形の生命に波動を与える所のものです、死すべき者（人）に属する心として知られているものの中の意識に濾過器があって、そこに富、温かき、および光を見いだします。人間の心、それは無限の愛と理解と美を相續いて創造し、偉大さと高尚さをもたらします。人間の心は、上からきたり、周囲の平面からきたり、偉大な者からきたりするすべての様式の波動を経験します。ここで偉大な者とは奉仕を自ら志願し、切りたった断崖から参照平面に降下し、真理や大理想や大きな教訓等の偉大な贈り物を表現した者です。

この形の物質の進化を通して、われわれは反作用の存在を見いだします。また、極端から極端までの全領域の感覚を経験し、その上つねに平衡形式・静止形式を得るように探し求める人間の心を見いだします。その形式の中で間断なく崇高な平面から降下

してきた想念をさらに多く受け、それらを理解しようとし、本当に、わが兄弟よ、すべての惑星上の人間は大きな発生を感じました。大きな真理を経験しました。かれらの存在物をわれらの原始の神の想念よりもっと光輝ある表現に作りあげ、調和するような靈感を得ました。

波動にかれ（存在）の出現を加え、有限でなく無限ならしめるために、偉大で強力な存在が漂い、物質化したのは、あなたがたの惑星が進化の初期段階でありました。この機会に大きな力が発揮され、偉大な存在がきました。すべての物質の原子そのものや分子さえもかれらの軌道の中で身震いしました。すべての物体はこの新しい広がったものに対する恐怖で応答しました。岩石や鉱物や植物や空気そのものさえも、偉大な存在が地球というものに偉大な真理をもたらすために降りてきたので、新しい呼吸で脈打ち、新しい波動を吸いこみ、より大きな感覚と偉大な存在とを経験しました。偉大な真理は

地球の人々のためのものであり、偉大な教訓が提出されました。偉大な託宣がこの頃告げられました。大きな熱望が感じられました。人類はそのほのかな

自覚の中に突然新しい感動を認識するようになりました。生命のより大きな喜びがかれの体内に湧き起りました。一層高尚な使命がきかされました。

それは、宇宙に関し神の無限を物語るものでした。

あなたの方の惑星を吹きあらして、この偉大な師の後を追う風さえも託宣を運び、波動をもたらし、人間の胸に新しい開始、新しい目的、新しい目標を感じさせました。さらに、ずっと以前に、人類は信用しないわけにゆかないような接触を経験しました。かれの託宣が地球として知られるものの周囲にきかれた所のものは、その存在にとって大きな目的をもつものでした。かれは語るべきことが沢山ありました。かれの音は謙遜で、誠実で、非常に高貴なものでした。かれは偉大な真理をつぎのように語りました。「われは太陽である。われは道であり光である。われはすべての人々にとって道である。」

人類はこのものの託宣を何世紀にもわたって繰返し繰返しききました。行動はかれの言葉とともにあります。わが兄弟・姉妹よ、実行はかれの言葉に従っています。わたくし **Monka** はあなたの方にある種の想念を説明する特権を与えられました、よくいわれるように、あなたがたは見るべき目を持ち、語るべき声を持ち、きくべき耳を持っています。その他あなた方は、友人とわかちあう愛をおもちではないでしょうか。兄弟よ、あなた

方の心と胸襟を開きなさい。人と交わる場合、とくに相手の子供っぽいことを口にしないのはもちろんですが、無知による愚かさをあざけてはなりません。兄弟よ、曲りくねった道でも、光はつねにあなたを照らしてくれるから、それについて行きなさい。

あなたの目を開きなさい。

あなたの人格を拡大し、開いた心で朝の空であいさつする太陽すら抱きこみなさい。

もし、あなたが両足で立ってあなたの尊厳を表わしたいだけならば、

もし、あなたが生存の能力と意図を実現したいだけならば、

もし自分に内在するものを与え、あなたが一部であるすべての形の創造物に与えたい
ければ、

あなたの生命は新しい意味をもち、あなたの経験は豊富になり、温情と理解でみち溢れ、

あなたの争いは止み、闘争は終り、本当に平和はあなたのものとなりましょう。

わが兄弟よ、あなた方の惑星にとりこみ、あなた方の行為を目撃し、われわれの思想をあなた方に伝え、あなた方と同じ経験をするわれわれは、ある熱望、ある同情がまだわれわれの胸の中にあり、われわれ同様の光があなた方の中にあるとの知識が宿っているのを見いだします。

それは包まれ、囲まれてはいません。それが発光し、広がるためには、ただ燃えさからせる扇が必要なだけです。

地球の皆さん、われわれはわれわれの想念を分配したいと思います。われわれは待ち、経験し、あなた方の混乱を目撃しました。われわれはあなた方が表明することを認めました。われわれは愛と理解を提供しました。われわれはただあなた方のもので熟した果実を食べることを望むだけです。

あなた方自身でやりなさい。偉大で、善良で、正しいものを受取るよう心を開きなさい。あなた方の生命がご自分のものである大愛を表明して下さい。

以上、わたくし Monka がお話ししました。

「われわれの輝く光があなた方とともにありますように」

「かれの超常力があなた方のものでありますように」

〈終〉

(訳者注) 以上は金星文献の中で最大の難文であった。多分読者にとっても戸惑われたと思う。例えば、宇宙波動の科学的説明かと思うと、教訓的倫理的内容を含んでいるといった具合だからである。ただ、想念とか波動とかの意味が、宇宙創造の操作に関するものであることを知ると、少しは了解できる。つまり、数 1000 億年以上の昔、宇宙創造の大神様は、その主座において、しばし瞑目された後、かなたを見つめられ広大な無空間を御想念なされた。つぎに、その無空間に無数の星よりなる島宇宙を形成なすよう想念され、これにいろいろな法則を施された。この大神様の御想念がそのまま実在となるように、無限の波動として、その無空間にみなぎった、波動にはそれぞれ固有の周波数があり、異なった波動が交わった位置に物質が構成されるといわれている。

その意味で本誌の表紙にオルゴーン流の厨をライヒの文献より借用した。これにはずい分難しい理論が含まれているようだが、今後の宇宙文献に期待し、一応この位で筆をおく。

7 The Green Emerald by Monka

In times far removed from this one's present, great forces and energies from sources which in your terminology, could be considered divine were exercised upon this mass of substance. Great stirrings were felt.

Mighty forces were unleashed, and wave upon wave of awakening consciousness radiation poured forth from the very ether itself, and this one knew identity and consciousness.

Its position, like many sister planets through eons of time when its physical existence. For by this time its purpose would have been served.

This planet, my brothers, was located in a typical solar system. Races from various other sectors of space visited this one and human civilization enacted. Through eons of time Man gained ever in awareness. He experienced all manner of this thing called life. He gained through age of total ignorance, shall we say, into more enlightened ages. He discovered the principles of some of the universe's great laws.

]Through the sense of perceptions available he began to observe, to correlate data, to make assumptions. These, these findings precipitated him into an age of great learning and great enlightenment. But like most forms of consciousness newly realizing the potentials of great forces poorly understood and at his disposal a blunder occurred, and Man upon this one was cast back or reduced to again a more primitive state, not totally lost in awareness, but, shall we say, with a portion of his memory removed.

These ones again started building for their futures with a great and mighty ideal still implanted in the innermost core of their being. Again progression occurred and this form of Man, now the wiser through the gaining of much experience, treaded upon the path and again sought the ascending steps of loftier heights. Their past, ages of gradual awareness and awakening, Man again sought for and obtained an essence of that known as divine.

this time, however, his progress was more carefully planned. Instead of evolving at its most speed, his footsteps faltered sometimes along the path. But, none—the—less, his strains were never far removed from his goal he had envisioned as his future.

At a specified time a great teacher was sent to these ones to again precipitate them into an awakening experience. This one, having left his influence and teachings, left your planet in a way never to be forgotten. And since this time progression has occurred at an ever accelerated pace.

Now as this one evolved again the forms of science, technology and the evolution of things considered spiritual took place. This time these ones discovered new forms of energy. They started delving into the very secrets of that called matter. Soon they learned various ways of disassembling matter itself.

Unfortunately these powers were not always used towards constructive ends. For even amongst these ones, these were those, there were those beings from other worlds who quietly stepped into this planet's environment, who sought after positions, for should evolution and progression again attempt a direction which could be considered detrimental these ones could exercise the great knowledge, the great awakenings.

Now we shall examine, for a moment, this one's two alternatives. Let us first look upon a progression considered correct. Let us look at a planet whose spiritual achievements reached forwards and upwards, whose races knew peace and harmony, whose people trod the forests and hills and whoever enjoyed the calm serenity of pale azure skies lined with fleecy white clouds, who listened to the cries of the birds, who enjoyed the delicate fabric of a forest carpet, whose eyes surveyed a mighty mountain chain, whose eyes observed rolling waves of green, whose eyes observed the mighty rollings and swells of oceans wide.

This, my brother, is one probability. One whose very probability could advance mankind in a short period to the learning of such truths that powers, not unlike those of the gods, would be theirs. These ones would spiral, not only outwards through their neighboring systems to other stellar constellations, but would even discover the secrets of their own planet's internal core and learn perhaps the most starting of all information. This is the probability leading Man in Footsteps most desired.

Then, my brothers, there is another probability existent. One where those forces at man's disposal would be turned towards the creation of havoc and destruction. Where grief and poverty, misery and anguish would be the rewards cast upon humanity. A humanity which in itself would undergo these experiences for not having faced realities ever present about them. Whose eyes instead of accenting that which is true would be glazed in dark. Whose hearts and minds having been conditioned would accent mere statements or words as fact. Whose very thoughts of reality were colored by the thoughts of those who told them what, to think. Could not your hearts go out to people so blinded and enslaved, so comfortable in their wheels and shells of ignorance that they would not have the insight to look about them? It would be a great pity.

My brothers and sisters, in our many discourses with your peoples meanings have been brought forth to your awareness for your consideration. They have one purpose only. To cause men upon your planet to think. To let them see perhaps a glimmer of t

hat elusive thing known as truth. If on any occasion we have accomplished this, we have accomplished a mighty deed. for in all my references, my brothers and sisters, I 've been speaking to a planet known through many, many stellerr systems and, as I believe, most of you are aware, one known as Earth. Throughout all of the teachings available to your peoples refernces have made to great gots, of great beings. Perhaps, people of Earth, you are about to witness this for yourself.

*〔記者注〕 以下つづいて紹介する文献はすべて断片的なもので、標題すら原文についていない。内容も前2回の文献のように科学的なものばかりではない。しかも、いずれ似たり寄つたりの倫理・道徳を説くものが多い。だから、その根底に流れる何ものかを知らないで読むと、多分退屈を催すことになると思う。そこで、多少でも分かり易くしようという意図をもって、訳者が勝手に適当な標題をつけることにした。ですから、これは番号の重複位に軽くみて頂きたい。それから内容についてであるが、実はその背後には地球にとって新時代への一挙突入(transition enmasse) という重大な事件が控えていることを念頭において親切心でのべているらしいので、一見平凡にみえる以下の文章を重視して読んで頂きたいと念願している。新時代への一挙突入については本誌第4巻第1号の37ページ右欄の中程に英文のまま示してあるので、あるいは看過された方々も多いと思う。しかも、これは一天体にとって、一億年に1回の周期で発生するような大事件であるから、せいぜい数千年の塵史しか確実に知らない地球人類の常識ではにわか

かに信じ難いというのも無理からぬことである。しかし、来る5月11日の大講演会で渡辺大起さんがじっくりとお話下さる「オイカイワタチ」の内容や、それと独立の情報ルートから入手した宇宙事情を検討しても大筋において一致する所があるので、ますます確信を固くせざる得ない。ただ一言ここで世間一般に流布されている「ノストラタムスの予言」と今われわれの問題にしている内容とは無関係であることをとくに注意しておきたい。

8. 新時代を悟る必要性

Mr. X : 1958・1・18

わたくしどもがあなたがたの天体に今やって来ている目的は、あなたがたの大衆の間に新しい悟りを開いて頂こうとしていることです。これは現代の常識をはるかに超越した新しい真理、新しい理解をもって頂こうとしているのです。つまり、あなた方の太陽系が宇宙空間の中で新しい周期に入り、新しい領域に突入しつつあることを、現代のあなた方は悟らなければならないという必要に迫られているのです。いわば第4次元とでもいべき、より高次の振動に移行しなければなりません。あなた方地球人が新時代に突入するためには、あなた方の精神的自覚を向上すべきであります。なぜかと申しますと、在来大多数の地球人がもっていた程度の精神的自覚では生存不可能となるからです。

9. 転世輪廻の目的

BK : 1959・6・22

人類がタイムトンネルを旅し、かれらに成長と理解をもたらす経験をつむにつれて、知恵、知識および理解力を開発しますけれども、かれらが本当に学習を悟るまでには、いかに多数回経験(輪廻)を反復しなければならないことでしょう。あなた方の自覚を四六時中維持しなければ、多くの教訓は失われてしまいます。人類が現世に存在するのは、ただ他の方法では得られないような経験を得るためでありますけれども、過去何世代にも亘って偉大な知恵、偉大な理解をもたらすはずの重大経験をつみながら、しかもなお失敗しているのです。人類の理解が欠乏していたために、地球という天体上で文化につぐ文化が興亡しつづけましたが、人類の多くは失敗を経験し、責任を分担し、まだ最終の学習を得ていません。

10. 人生向上

Yaum : 1961・5・31

人類はその文化に貢献し、助長する唯一の方法はつぎの点にあるということを実感をもって知らなければなりません。すなわち、人類それぞれの内心を向上させること、かれらの愛の意識や理解の意識を醸成すること、かれらの同僚を寛大にゆるし、すべて人々がそれぞれの理解に従って自己表現をするものであると認めること

などであります。おわかりのように、もし、われわれの生涯におけるこれらの物事を顕示するように各自の内部向上ができるならば、われわれが会って交際する人々はわれわれのもっているものも持ちたいと思うだろうし、かれらの内心の希望が燃えて、かれら自身の生活が変わりはじめ、われらの経験をかれらも経験するかも知れないだろうという生活の輝かしい例証となりましょう。われわれは多くのことを語るができますけれども、これらの事柄をわれわれの実生活に活用するのでなければ何の役にも立たないでしょう。

さて、わが友よ、わたくしはあなたがたの既知のこと以外を語ってはいません。しかし、いわばわれわれ自身の生活を少し見つめて、われわれの語っていることをどれだけ生活に実践しているかを知ることにも時にはよいことではありませんか。われわれ自身の生活をまず最初に改善しなければ、われわれの住む世界を改善することにはなりませんから、われわれにとって最も大切なことは自身の内部にあるものをつねに知悉(ちしつ)するように心がけるようにしなければならないと思います。

11. 天佑

Hatton : 1960・7・25

わが親愛なる友よ、ここにふたたび皆さんとお話しできることを喜んでいますが。最近の数ヶ月間あまり話さなかったのは、その必要を感じなかったからです。

皆さんは皆さんの前方に何が待っているか、将来の発展と準備に何が必要かを十分承知した段階に到達しています。また、あなた方各自あるいはあなた方の大部分といってもよいのですが、それぞれの個人がもつ知恵についてよく知っており、それらの援助を受けているのであります。知恵を知ることによって、それらがあなた方を助けるよう、あらゆる方法で努めて下さい。なぜなら、わが友よ、精神的に成長しようとするのであれば、まず知恵を知ることが必要だからです。愛する友よ、よくお分かりのように、あなた方が自分の身のまわりのことばかりに目を奪われて、あなた方の成長や幸福にとって最も大切な内部よりの指導力について感知することを忘れることがしばしばあるものです。多くの場合、感知の欠乏によって、不愉快な経験を回避できなかったり、愉快なことを経験しそこなったりするのです。なぜなら、あなた方は前途にある事件を予見する能力が不十分だからです。あなた方を助けようとする存在たちにとっては、これらのことをつねに予測できますし、かれらはあなた方が避けなければならないことや、避けてはならないことを適切に判断し、指導しようとしているのです。ですから、皆さんはつねに内部の激励を感知するように心がけ、自我意識に溺れないように注意しなければなりません。

あなた方の文化において、精神的向上が今日ほど大切な時期は未だかつてありませんでした。わたくしは皆さんめいめいが精神的向上の好機を利用されるようにおすすめします。われわれはこれらの好機が皆さんの役にたつようなら何でもいたします。われわれは皆さんのためにそれを実行することはできませんし、それをしようとも思いません。あなた方自身の周囲に利用できる機会は沢山あります。あなた方自身がそれらの機会を見出す努力をし、それらを利用しなければなりません。われわれはただ、あなた方の学習欲を刺激すると感ずることだけをあなた方に提供するのです。しかし、わが友よ、あなた方の意識を高めるのはあなた方だけなのです。

12. 自己発見

著者不明 : 1959・6・2

すべての皆さん方は聖なる真理とその理解に大きな関心を示しました。あなた方を援助することに関心のあるわれわれとしては、あなた方が考えている以上にあなた方のためを考えています。もし皆さんがあなた方の感知力を研ぎ澄ます意志をもっているならば、われわれは皆さんにとって従来より一層価値の大きいものでありましょう。すべての物事を感知するように努めなさい。とくに奥深く内部のどこからともなく刺激してくる内部感覚を感知しなさい。なぜなら、これらはあなた方の経験の中で大切なものだからです。これら内部からくる大きな刺激は理解の道程であなただ方を指導するものです。すべてのあなた方の経験を知覚しなさい。そして、そこから知識、知恵および理解を引き出しなさい。皆さんめいめいの内部には偉大な宇宙の知識や、すべての知識やすべての知恵の宝庫を開発する能力を秘めています。それはあなた方自身が使うためのものです。それは神より与えられたあなた方の特権です。それを請求するのはあなた方の責任なのです（**It is up to you to claim it!**）わが親愛なる友よ、あなた方は自身の中に宇宙の威力を内包しているのです。あなた方はただそれを請求するだけでよいのです。創造との親子関係、創造主との親子関係を主張するだけでよいのです。なぜなら、かれ自身の存在を感得するに至らないような人はそれを受けられないからです。

〔訳者注—この文章は地球人に対する宇宙人の誠意と熱意にあふれている。これほどの宇宙人が先般テレビ報道されたように、アメリカ各地の牧場における牛の大量屠殺を計画することなど思いもよらぬことである。果して、連邦警察は生血を生贄にする新興宗教の教団を犯人として検挙したのは大部前のことであつた。宇宙人の仕業にすれば永久に迷宮入りするだろう等考える人間が地球人の中に存在するという事は悲しむべきことであり、宇宙人に対しては恥しいことでもある。また、読者の皆さんにとって「すべての物事を感知するように努めなさい」ということの真意をつかみかねておられるかも知れない。ところが、PSIJ 月報 50 号で紹介した「オイカイワタチ」の書物を開いてみると、雲の形をみて宇宙人や神の言葉を理解するというくぐりぐぐりが随所にみられる。それらを見過ごしてしまうことは宇宙人や神に対する心の礼儀を欠くことになることとされている。そんなことを考えながら「自己発見」の文章を読むと味がでてくると思うのである。〕

13. 未来への関心

Antho : 1961・12・8

今日ここにご出席の方々の中にはあなた方の将来について心配しておられること、より偉大な理解のための探究に進む道を求めていること、およびまさに行われようとしている新経験に旅立つにあたり、あなた方の地球の準備に奉仕する機会を探し求めていること等についてもわたしは考えています。それでもなお、親愛なる友よ、わたしはもう一度真摯

な感知と結びついた忍耐が必要なことのすべてだといわざるを得ません。それはその瞬間どんな手段であなた方に出現しようとも、人類に奉仕する真心が必要です。そうすれば、どの瞬間もそれ自身を善導し、あなた方を正しい道にそって前進させるでしょう。時にはあなた方もつまずき、あちらこちらとよろめくかも知れません。しかし、これらの法則に従うならば、あなた方の目標に到達するでしょう。ですから、わが友よ、心配しなさんな。明日を思い患ってはなりません。なぜなら、一日一日の新しい日はあなた方の前途を開く新世界だからであります。そして、あなた方に仮の宿の大きな経験をもたらす所の日となるだろうからであります。平和に、愛を以て、理解して進む者は、かれの求める意識の決勝点に確実に辿りつく道を歩む者であります。

14. 信ずるよりむしろ知れ

VK : 1960・12・15

あなた方の現在の立場において、すべての緊張をほぐし、信じないで知りなさい。ただ知りなさい。そして、あなた方のためになるのは知ることです。なぜなら感知が大切だからです。あなた方に語りかける内よりの声を聴きなさい。しかし、わたしの意味するのは耳からきこえる声ではなくて、むしろ間違いないことを知ること、感ずることです。

しかし、あなた方の自我や知性によって、折角得た印象を消滅させてはなりません。印象があなたを訪れるときは突然やってくるし、それらを期待していないときにやってきます。これがこれらを感知し、やりとげることが大切な理由です。

大多数の人々は何が起っているかも知らず、この声に注意を払わなかったために偉大な機会を失っています。あなた方はだれでも、自身の中に経験を通して堂々と自分の条件を使って、これらの経験による利益を刈取る力をもっています。

15. 心の中の感覚を養え

BK : 1960・2・8

人間はすべてのことに打ち勝つ能力をもつように創造されましたが、しかし人間は自分の中にもっている能力を自分でよく認識し、それを用いなければなりません。各個人の実体もまた創造主から認識の力を発揮するような内部感覚を与えられています。

その認識の力によって、あなたの生長のため、あなたの理解のため、あなたの進化のために必要な道にあなた方を導くことができます。人間はこれらの感覚を養わなければなりません。人間は自我意識、利己主義、欲望、貧欲あるいは情欲などによって動揺することのないよう修養しなければなりません。

もし人間が本当の道を進もうとするのであれば、これらの悪癖をすべて捨てなければなりません。そして、かれに平和と理解とをもたらす所の生涯の狭い道につねに導いてくれる静かな声を認識することを覚えな

ればなりません。わが友よ、あなた方の心の中であまりにもしばしば、小さい声で話すので、聞きとれないことが多いものです。心配、自我その他諸々のことのために声が埋もれ、きこえないのでしばしばそれが無視されます。

16. 真理を知る機

BC : 1959・7・12

次第次第に毎日あなた方はわずかずつだが、より多くを知り得るような事象が頻発しています。そして、あなた方の兄弟、あなた方の神に対して、人々の間に知る種を植つける義務があります。その種は、人々が真理を知ろうとする希望を刺激し、より多くを知り、より深く考えさせる原因にもなるのです。それを注意深く見守り、かれらの機会について知ることがあなた方の責任であります。なぜなら、そうすることによって、あなた方自身のために奉仕し、宝を作り上げることにもなりますし、またあなた方の債務のなにかがしカミを返済することにもなるのです。どうでしょう。これで自分の考えが表現できたかしら？（はい）

〔訳者注

単調の青菜の連続で、一見何のことかわからない短い文牽の音律に隠された意味があるように思われる。「事象の頻発」は多分新しい時代に移行する前兆を意味するようである。「かれらの機会」というのは多分、人類の意識革命の機会ということであろう。最後に「伐務の返済」とはカルマのつくりたくない（償い）ということではあるまいか。〕

17. インスピレーション

Yaum : 1962・7・12

質問：人はどんな方法でインスピレーションを感知するようになりますか？

ヨーム：いいですか。感知というものは修養によって得られるものです。いいかえますと、何事についても感知するようつねに心掛けることです。インスピレーションや指導だけでなく、身の廻りの物事についても感知の修養をしないために、いかに沢山のものを見失っているかは驚くべきほどであります。

いかに沢山のものを見失ってきたかを、あなた方が本当に感知し始めたとき驚くべきものがあります。

わが友よ、そうではありませんか？われわれは経験の中で大多数のことを見失っていることにしばしば気づきます。だれでもインスピレーションがあり、指導を受けているのですが、しかし、それを受けたとき、人々はいかに心を通じるときに感知しないか、ほとんど気づかないため、反応をしないのです。ですから、いいですか、あなた方の意識における修養の問題に他ならないのです。それは他のことについても言えるのと同じことです。これでいいでしょうか？

質問：もう少し明確にできないものでしょうか？

ヨーム：感知を定義してくれとおっしゃるのでなかったら、もう少し明確にできるのにどうしたらよいか分かりません。

質問：それがインスピレーションだかどうかをどうして見分けますか？

ヨーム：インスピレーションは刺戟とか衝動（urge）以外の何ものでもありません。それは心に作用する何ものかです。そして、もし感知していれば、心の中で分かるような通常の思考あるいは通常の思想を超越しているものであることが分かるでしょう。多くの人々はインスピレーションをもっているのですが、しかし、かれらはあまりにも知らなすぎるので、かれらのそばを素通りするにすぎないものになっています、しかし、真理と理解を求める人々やこの種のことを修養した人々は、普通の思想と何ものかに反応し、何ものかをする衝動との間の差を知っています。

意見：ヨームさん、前にも申しましたように、これらのインスピレーションがどんなもので打ったかを思いだして検討する必要があると思います。

ヨーム：これらのインスピレーションは時として鋭く、急にやってくることがあります。それらのことを第一印象といいます。きっと、あなた方の先生はずっと以前に、第一印象に従うことの重要性を強調したはずですが、しかし、いいですか、人々はしばしば合理化をはじめ、自分の考えを主張し、いいですか、その当時かれらにとって、知性的考察に大して役立たないと思って、話をそらしてしまいました。

18. 真理への道程

特報：1962・1・11

タイムトンネルを進むときに、あなた方の感知能力を高めなさい。あなた方の周囲にある美点を視察しなさい。かれの創造の中にある創造主の作品を視察しなさい。自然を裸のまま、植物界に、動物界に観察しなさい。そして、大空を見上げ、大作を本当に見なさい。じっくりと視察し、意識を広げ、その中の真の美をそこに取入れるならば、間もなく真に偉大な創造の意識の中に実感がわいてくるでしょう。それから、人間はこれらすべての偉大な作品の統治権を与えられたものですから、人間創造の真の偉大さに関する実感があなた方にわくでしょう。

人間はこの偉大な統治権を与えられました。そして、実感がわき始めるでしょう、そして、人間とは何かがということが本当に分かり始めるでしょう。それはあなた方の自我を助長するような自己本位の方法でなく、謙遜で熟達した方法で実感がわくのです。それですから、この統治権と能力を与えられることによって人間に課せられた責任を実感し始めるでしょう。そして、人間同志の完全な兄弟関係と理解をこれら偉大な人間能力と調和させなければならぬかの実感をあなた方にもたらずでしょう。

そして、あなた方の意識の中に、これらすべての物との偉大な調和関係の実感を生長させ始めるでしょう。そして、次第にあなた方はこの創造の偉大な海に、またこの人類の大群の中にあなた方を調和させ始めるでしょう。そして、その中にあなた方は動きはじめ、それと一体となるでしょう。それから、創造と神秘の真の理解があなた方の中に芽えはじめ、さらにそれから、愛する者よ、あなた方は真理と理解への道程に本当にのるでしょう。

愛する者よ、わたくしは警告します。これは短い道程ではありません。むしろこれは長い連続した展開の道程でありまして、学ぶべく、理解すべき多くのことがあるのです。しかし、この理解がだんだん生長しますと、この道程はいっそう美しくなり、だんだん興味深くなり、これら偉大な真理をさらに吸収しようとするあなた方の希望は心の中でより強く生長し、いまだかつてあなた方の知らなかったような偉大な平和と愛の感覚を伴ったものとなりましょう。なぜなら、愛の本当の概念は本当にこの道程にのらなければ、人間の心に芽えないからです。それは言葉で表わそうとしても表わしきれないほど美しく、むしろ人間にとって知ったり、経験したりすべきものであります。わたくしは、あなた方の心の中に、さらに探究するように助けてあげる小さな導火栓となると思いましたので、あえて以上のことを申し上げたのです。

19. 探究の果て

特報：1961・9・28

あなた方は万物です (all thing)。あなた方は万物であること、創造の万物およびすべての創造ということが考えられますか？ 真理探求の道程にそう進むとき、あなた方はこのことを念頭におきますと、間もなく、自分がだれであり何であるかをちょっと覗きはじめてだけで、心の中に大きな発見をはじめます。人類は自身の偉大さを実感しなければなりません、しかもかれの無私の実感ももたなければなりません。愛する者よ、このことは大きな意味を含んでいますから、よくよく考えてみて下さい。そうすれば、そう遠くない将来に、あなた方の探究が誠実ならば、わたくしの言ったことがあなた方に分かりかける日がきつくるでしょう、そして、あなた方の意識の中でこのことが分かりかけるにつれて、全貌があなた方の前に展開し、その偉大さに畏敬の念を抱くでしょう。

あなた方の心の中に、体の一つ一つの細胞の感知、あなた方の行動そのものの感知、あなた方のすべての思想およびあなた方のすべての運動の感知を養い始めなさい。静寂の中で、この内心の声、あなた方の本当の部分あるいは多分あなた方が神とよぶものを感知し、時として、真実のあなた方からのこの声からくる偉大な天啓を見出すでしょう。もし、あなた方が謙遜で感謝の気持があり、誠実であるならば、偉大な悟りにあなた方が到達し、あなた方は果てしなく続くより偉大な世界の全貌に連なる道程へ導かれることに気づくでしょう。

(訳者注：この通信文の冒頭に「あむた方は万物です」という言葉も一見奇異に感じられるかも知れない。し

かし、禅でいう「宇宙と一体になる」という言葉を思いだせば、やや分かったような気持ちになります。それでも、まだ常識の世界の習慣で話ありません。

20. 調和関係 (At oneness)

Naketi : 1960・12・13

わが愛する者よ、わたくしはあなた方に平和と愛があるように祝福します。ここでいう愛とはあなた方の知っている愛とちがって、あなた方の理解し難い意味の言葉であります。わたくしは Naketi と申します。わたくしは、あなた方の疎から非常に遠い、数 1000 光年のかなたからやってきた者です。われわれの所では、民衆を Naketi の息子たちと呼んでいます。わたくしは、この惑星系の条件を研究するためと、奉仕することを探するためにやってきました。われわれの生活様式はシャン (Shan) の人々の理解し難いものでしょう。われわれは調和関係を理解します。われわれはわれわれの創造主とわれわれの同僚との関係を理解します。われわれには個性や個人的知能を持合せていますが、本当に調和関係の中で生活しています。しかも、自分がかれであり、かれが自分であるというように、われわれの存在を調和関係の中に混在せしめることができます。シャンのわが友よ、そのような意識の混在を考えることができますか？ このタイプの混在によって、あなた
の同僚の完全な理解をすることができます。

〔訳者注：シャンというのは宇宙語で「悲しい者」という意味である。宇宙人同志では互いにこの言葉を使って地球人のことを話しあっているが、地球人に向けてシャンと呼ぶのは珍しいことである。多分 Naet † さんは太陽系以外からきたため、自然にこの語がでたものと思う。つまり、この太陽系でも地球人だけが文化の遅れのため、宇宙人の仲間に入れず、気の毒な人々というつもりで、シャンという別名をつけたものである。〕

21. 人間の神性

BR : 1961・10・5

さて、わたくしは人間の神性に関して、しばらくあなた方にお話ししたいと思います。皆さんのお許しを得て、この問題についてお話を進めてみましょう。さて、皆さん方の心の中でどれほど神性の実感をおもちになっているかわかりません。また皆さんがしばらくの間わたくしについてこられるかどうか、そして意識のレベルにおいて、地球上で皆さんの知っている以上の生活を探究できるかどうかわたしは疑問に思います。よろしくごさいます。ずっと先へ銀河系より先へ進みましょう。そして、そこで見る生活を探究しましょう。われわれが近づくにつれて、あたりの光景は一そうきびしく、われわれがまだ見たこともないほどの密度になり始めます。ここで、われわれは人々が動きまわり、生活を営み、社会生活をしているのを見ます。彼らもまた彼らの市や田舎をもっていることを知ります。しかし、これらの存在の間を動いてみますと、われわれにとっては奇妙に見える意識と態度をもっていることに注目します。これらの存在はあちこちと忙しいようにも、緊張しているようにも、あるいはまたかれらの幸福を求めて心配している様子も見ることができません。かれらが必要とするものはすべて即座に満たされることが分かります。かれらはすべてこれらのことに煩わされているようには見えません。かれらのすべての必要は必要なときに満たされることを見出します。われわれはかれらの態度やかれらの思想について感知するようになることが分かり、かれらの心の中に憤慨や恐怖の思想を見出すことはできません。かれらに疑いの心を見出せませんが、かれらの奉仕意識の中に偉大な愛や、偉大な希望を見出します。自己の思想は全く見当たりません。われわれはただ全体に関する思想を見るだけです。これらの存存たちは個人としてのかれら自身のことさえ考えないように見えます。

しかし、われわれは、かれらの意識に絡みあって、かれらは大きな生命の海の一部であるという感覚をもっているのを見ます。

そして彼らは、この創造物と生命の大海を一つの偉大な存在と見て、彼らはその一細胞にすぎず、この存在を一つの完全な調和体にするための役割を演じているのだと考えています。

各自は彼あるいは彼女の個性を実感しながら、全創造物の一部としての機能が他のどの部分のそれとも同様に重要であるとの実感を同時にもっているこのタイプの群意識があるのをわれわれは見出します。

そして、あなた方が神とよぶこの力の大海は、この偉大な存在の各細胞すべてを流れ、いかに小さくとも、それぞれの役割をつとめ、この偉大な存在にとって同様に重要な部分をなすとの実感をもっているようです。

さて、わが友よ、あなた方もまた、この大海、この生命または人間として知られる偉大な存在で同じように重要な部分であります。

しかし、それは人間にも勝るものです。

なぜなら、それはすべての物を含むからです。

この大海の中に存在するものは何ものも他と引き離すことはできません。

それですから、われわれの各自はすべて、自身の中に宇宙の力を含んでいます。

われわれは、そこを流れるすべての力の全支配権をもっています。

それは我々のすべての創造物の他の各部分を流れていますから、それは我々を通っても流れています。

われわれがこの神性・真の自己の実感に到達したとき、自分たちの地位を知り、われわれの意識を、植物生命であろうと、動物生命であろうと、自分の生命であろうと、この大海にある何ものの意識とも同調することができるでしょう。わが愛する者よ、わたくしを信じて下さい。

あなた方はこれらを知ったとき、すべての物はあなたの希望に応ずることを知るでしょう。

22. 素朴な実感

Oxal : 1961・11・21

小麦からもみ殻を選別する時が今やってきています。

羊の群は一個所に集められています。

羊飼いは嵐の近づいているのを知っています。

かれらはもうすぐ牧草の上に雪が積もるのを知っています。

そしてかれは羊を集めているのです。

そして秘密はこれらに対して与えられるでしょう。

なぜなら、あなた方の創造主がそれらを使うべきだと意図したときに、それらを使ってもよいからです。

この一つの実感は、知識について信頼のおけるすべての人々の心に固く保留されるべきであります。

この知識あるいは理解はすべての人類のために善用されるべきであります。

これは何人も避けることのできない宇宙の法則でありますから、もしこれを実行しなければ、この知識は最終的にあなた方を滅ぼすでしょう。

それにはわが友よ、あなた方地球の過去の文明をいくつか調査しさえすれば、かれらを滅ぼしたその事実を発見するはずであります。

そのようなことをあなた方が惹起してはなりません。

兄弟の人間がなければ、あなた方は存在できないし、存在の希望もないし、あなたなしに兄弟の人間もあり得ないという、すべての創造物との関係を実感しなさい。

そうすれば、あなた方が自身や兄弟の意識を高揚したとき、あなた方は全人類の意識を高揚したことになることを実感するようになります。

これは、われわれがしばしば強調してきた偉大な調和関係であります。

これが地球人類の実感しなけれならぬ偉大な調和関係です。

人間それぞれは偉大な存在ではありますが、他人なしでは何もないと同じでしょう。

23. 文明の基礎

Oxal : 1962・2・20

人は部材に耐える建造物を希望するとき、砂上に建設しません。それと同様に文明を確立しようと望むとき、唯物論の上に組み立てることはありません。進化の過程において、宇宙旅行ができたり、宇宙の偉大な科学を知り受け取ったりするような高度のレベルに達した文明は、健全な精神的基礎の上に建設されました。

かれらは本当に存在するときの人間を知るところを学びとりました。かれらは創造主の法則（複数）を学び、それら（法則）の完全な知識をもって、それら（法則）に従って生活しています。その完全な知識とはそれらの法則に従って人間が生活するときのみ、かれら自身が本当に偉大となるということです。

かれらはまたこの偉大な創造物の中における人間の地位について知り、実感をもっています。この偉大な創造物の中では、各細胞が人間の肉体の一部であるように、一つの細胞にすぎないことや、各細胞は互いに依存しあい、各細胞は他の細胞の一部であり、それぞれがかれ自身と他人のために生活していることを知っています。

多分、大多数の人々にとって、このように“自分”を見ることは困難なことでしょう。なぜならば、かれらにとって“自分”というものは非常に大切なものになっていますから、この偉大な創造物の一部にすぎない存在と考えるよりも、“自分”と自我によって支配される方が強いからです。

24. 全体と部分

Yaum : 1962・5・3

進化の道程において、あなた方はいろいろなことを経験したし、また現に経験しつつあるのですが、経験すればするほど、調和関係の実感に到達するものであることを考えてみて下さい。

そして、宇宙、その住民およびその表現を眺めて、これらの中にすばらしい、美しい表現を見、これが創造主の表現であることを考えなさい。

それが何であろうと、これらの各々、各個の表現は創造主の表現の一部であり、あなた方もまた一つの表現でありますから、あなた方はその全体の一部であり、あなた方はそれと調和関係にあることを考えなさい。

そして、創造物の中で見るいろいろなものに、あなた方自身を同調させるように努めなさい。

あなた方がこれらの美を見るとき、この美の一部となり、その一部を感ずるよう努めなさい。

そうすれば、適当な時に、あなた方が存在するという深い実感に到達するでしょう。

そして、この実感が生長するにつれて、あなた方はさらにさらにすべての創造物の美を見、かつ感ずるようになり、あなた方自身が偉大な調和関係の中に混入したことを感じ、わが友よ、多分これがあなた方の経験できる本当に最も幸福な実感であります。これはあなた方のなすべき仕事であります。

25. 偉大な潜在能力

Mr. R : 1957・8・28

さし当たり、これは最高に重要なことですが、あなた方皆さんは意識を高揚するように努め、創造主と調和関係にあることの実感をもたなければなりません。

創造主はあなた方の中に宿り、あなた方はこの一つの偉大な力、偉大な知能の一部であり、この宇宙およびすべての宇宙を支配することを知りなさい。

これを信ずるだけで十分ではありません、わが友よ。

これがあなた方の中にあることを知るとき、あなたがたがだれで、何であるかという実感が十分にあなた方にできたとき、そのときわが友よ、あなた方はいまだかつて知らなかった多くのことをあなた方自身が知るようになったことが分かるでしょう。

われわれは過去においてこのことの多くを強調してきましたけれども、今やわれわれはそれについて重点をおいています。あなた方がその意味を十分に実感するように、また造物主に接近するよりもむしろ外に立って

その外を見るように、われわれは毎日あなた方の意識にこのことを定着させようと試みております。あなた方それぞれは住んでいる環境の影響で、これら多くの概念をあなた方の心や意識にしっかりと定着させることが難しいように見えます。あなた方は環境に打ち勝つことができます。それは毎日なされます。よい面だけを見、思想を積極的に高い面に保ちなさい。最高のもののみがあなた方の思考の一部になるように仕向けなさい。あなた方の創造主との親子関係を主張しなさい。それはあなた方の権利ですから、それを主張しなさい。わが友よ、あなた方だけがそれをやれるのでありまして、他の人があなた方のためにやることはできません。

26. 真の平和

Oxal : 1961・3・21

われわれは心につぎのこと以外の考えをもって惑星地球にやってきたのではありません。それは援助の手を差し伸べ、惑星シャンの上の兄弟たちを新しいより高いレベルに持ち上げ、かれらにこの惑星上でかつて知られたことのない生活様式を持ち込み、そしてかれらに平和、それは人々の間の平和だけでなく心の平和をもたらすためにです。わが親愛なる友よ、これは人間のもつことのできる最大の達成事項であります。しかし、人間はかれ自身や、かれの兄弟や、かれの宇宙を理解し、かれの中にすべての創造物と一体にする愛をわき上らせるのでなければ、本当の心の平和を知ることはできないでしょう。言い換えますと、かれは創造物の一つの心、そこでは平和が最高の存在を支配する所の中にかれ自身を調和させます。人間がこのことを達成したとき、かれは真の平和、真の愛、真の理解、真の生命を経験し、かれは本当に生活し始めます。かれは創造物の中での愛を知ります。その愛はあなた方の生活様式という愛ではありません。それは真の愛とちがうからです。

27. 万物一体

特報 : 1961・11・30

人間は真理を料学とか、形而上学とか、宗教とかいった部分に分割するため大変な努力をしてきた。創造物の中では何物も分離されていません。なぜなら、すべては一体であり、一体はすべてであるからです。あなた方のどの大宗教もすべての真理を含んだものはなく、それぞれ部分を含むだけです。もし、われわれが本当に理解を成長させたいのであれば、一大融合が行われなければなりません。かくして、多くの多くの部分がともに集合し、調和し、適合することです。それによって人間は理解を通して生命をもち、それを堪能できるのです。創造主はあなた方に与えたかれの贈物を何一つ分割しませんでした。人間がそれらを分割したにすぎないのです。御身たち (ye) が宇宙法則を完全に理解しようと試みさえすれば、豊富な収穫があるでしょう。ただ創造物との関係を実感するように試みなさい。そうすれば、すべてのものがその中にあります。何度も何度も以前に言ったことだが、わたくしは汝 (thee) にもう一度、「汝は互いに他人を愛せよ」と言わなければなりません。そして、これは地球人の考えているような愛を意味するものではなくて、汝自身と全人類に対する汝の関係、すべての創造物に対する汝の関係を実感してはじめて、汝は万有愛を理解するものであります。万有愛というのは自己の面からでなく、人類の面から考えるものです。なぜなら、人類にとってよいことは、わたくしにとってもよいことだからです。

28. 新文明への道

MT : 1961・9・15

あなた方の生得権をつねに思いだしながら、またあなた方が何であるかを認めながら、毎日ゴールに向かってあなた方自身を再献身しなさい。

なぜなら、あなた方は創造主の延長にすぎないからです。

それゆえ、このことを始終心にもって、あなた方の親子関係を宣言しなさい。

あなた方の惑星に現れる新文明はこの道に従って進んだ者たちから成り立ち、かれらの完成は、汝らが考えたり感じたりしているよりは、はるかに大きいものとなりましょう。

なぜなら人間は真の姿で無限の力があり、当然一人の創造主だからです。

人間はかれ自身を愛することを本当に学ばなければなりませんから、このことを看過しないようにしましょう。

そして、かれが本当にこのことを学んだとき、すべての人類を愛することを学んだことになります。

なぜなら、かれはそれと一体であるとの実感をもつからです。

29. 理解の練習

Oxal : 1961・3・21

あなた方は理解の名の下にここに集まりました。わが友よ、これはあなた方の惑星で広く沢山使われる言葉でありながら、理解を練習し、使おうと努力することが足りません。本当の理解はあまりにも少ないのです。第一に、毎日の生活の中で理解の練習を試みなければなりません。あなた方の同僚がなぜ行動し、発言するのか、なぜかれの信念と行動があるのかを理解してみなさい。かれの環境があなた方のそれと違うだろうことを理解してみなさい。あなた方の愛と、友情と、理解とをかれにおよぼしなさい。

30. 精神についての知識

JB : 1959・10・12

わが愛する友たちよ、わたくしは愛と平和のうちにあなた方へご挨拶します。……愛する者よ、人間の心を悩まし、探し求めてかれを駆りたてるものは何でしょうか？ だれの心の中にもあるこの欲望は何であるか、かれの中にあるこの衝動が求めているものは何であるかについて、人間はつねに知りも実感もしません。そして、この衝動は各個人によっていろいろな方向に変化します。あるものは富を求め、他のものは快楽を求め、また他のものは知識を求めます。しかし、どの方向であろうと、これはあなた方めいめいの中でも得ている同じひらめきです。それは、真理を知ろうとする内部衝動であります。

人間はそれが何であるかを求めて、かれを駆りたてるこのひらめきに気づいていません。それは解放すべき何かですけれども、かれはつねに賢明な方向に進むわけではありません。人間が成長するためには、これらのエネルギーを解放し、それらを賢明に利用して知識と智慧と精神的理解とをもたさなければなりません。人間が精神的理解を得ようとするのであれば、多くの物事の理解と知識をもたなければなりません。精神的なことは、すべてのものを支配し制御する偉大な存在の偉大な知識をもっていると自負する者では代表されません。本当に進化した精神的存在はすべてのものについての偉大な知識をもつでしょう。なぜなら、自然の中ですべてのものは精神的だからです。

31. 人類相互間の理解

Oxal : 1961・1・17

われわれは地球の人々の心に、人相相互間の重要性を印象づけるために大きな努力を払っています。これは、あなた方の世界的指導者の間で今日多く用いられている言葉です。この言葉はあなた方が何度も何度も繰り返し

てきています。わが友よ、この言葉には力があるからです。あなた方が考える以上に力があります。あなた方が時間の経験とともに注意してごらんになれば、この言葉は地球の人々によってさらにさらに用いられるようになり、ついでそれは人間の心に根づき、成長するでしょう。

32. 真の愛は理解すること

Oxal : 1959・8・23

今や地球人は真の存在を実感するときです。今やかれは個人で生活することをやめ、全体として生活し始めるべきときです。わが友よ、他の方法はありません。なぜなら、他の方法はあなた方の創造主の法則に反するからです。それゆえ、人間が永続するためには愛を学ばなければなりません。いいですか、地球人にとって大きな困難は愛が分かっていないで、ただそれを感情と考えていることです。ところが本当の愛というのは理解することです。ですから我々はまず、自分自身を理解することを学ばなければなりません。我々が自身を理解することを学んだとき、我々是我々の兄弟を理解し始めますし、人間を人間としてあるがままに理解するとき、自然に愛し始めます。我々は人間ですから、人間が何であるかを知っており、人間はただ経験を得るために表現することを考えるので真理を知るに相違ありません。そこでこの理解をもてば、憎悪も、貪欲も、嫉みも、憤慨も、それに現在惑星地球上で混乱の起きているすべてのことも雲散霧消してしまいます。愛する友よ、どれだけ何回もこのことを繰り返したか考えて下さい。しかし、他に何を言えばよいのでしょうか？なぜなら、人間が精神的に何か価値ある前に、かれは理解をもたなければなりませんし、理解の第一歩は自身を知ることです。これをあなたが誠実に瞑想するとき、あなた方に多くの答えが返ってくるでしょう。しばしば地球の人々が熱望した実感または天啓が得られるでしょう。

33. 自己発見なしの科学知識はあり得ない

Yaum : 1961・11・9

今日の人間は宇宙の秘密を知りたがり、その力やそのエネルギーを学びたがっています。かれはこれらのことを学ぼうとして大きな努力を払っています。それなのに、かれ自身について何かを学ぼうとする努力は非常に非常にわずかです。わが友よ、それが本当じゃないですか？惑星地球の人はかれ自身について非常に非常に僅かしか知らないのに、宇宙の秘密を学び、新しい科学的方法を発見しようと、莫大なエネルギーと、時間と金を消費しているのです。もし地球人が自分自身を発見することの重要性を認識し、その努力の半分でも自己発見に消費するならば、かれの科学知識は猛烈なスピードで進歩するに違いない。なぜなら、人間が自己発見をしたとき、かれは事実上宇宙の秘密を発見したことになるからです。そのわけは人間がすべてだからです。裏を返していえば、人間が自分を知るまでは科学の進歩は非常に困難であります。わたくしがあなた方に言いたいことは、一度人間が自分自身について学ぶならば、かれの中にある力を発見し、かれが何物であるかを知り、そしてその後は万事が単純化されるということです。なぜなら、かれはいわば宇宙の心から引出す力をもっていることを学び、すべてがそこにあるのですから、いとも容易に知識を得るからです。数1000年かかっても、そこにはないものは発見も開発もできないでしょう。そこにありさえすれば、あなたはただ自分の心をつねにある宇宙の意識に同調して到達することができます。別に新しいものは何もありませんから、すでにあったものは何でもそこに含まれています。

34. 人間の力は無限にのびる

著者不明 : 1961・8・1

人間は問もなくかれの本領を発揮し、かれ本来のより偉大な概念に達し、なぜかれが存在するかの概念を示すようになるに違いありません。あなた方もよくご承知のように、人間は経験によってのみ生長します。そしてもし、人間が生長し、発展するものならば、第一にかれの意識が広がらなければなりません。それは、人間が何であり、だれであるかというより大きな意識まで広がらなければなりません。人間は次第に創造物の意識まで成長し、次第に当然かれが創造者であるとの実感まで到達しなければなりません。かれはかれ自身の中に

あり、創造する心の力の実感まで持たなければなりません。なぜなら、愛する者よ、あなたが現在ある立場を創造するのですが、現在の意識の中に実感していないからです。人間はかれの意識をどんどんどんどん向上させ、より偉大な実感まで拡張させなければなりません。

あなた方の文明においては、多くの誤った思想が教えられています。人間はある限界をもって創造され、人間はかれらを制御できないと教えられてきました。しかし、わが友よ、わたくしがあなた方に限界がないというときには、わたくしを信じて下さい。あなた方自身が自分に枠をはめることがただ一つの限界です。

人間は創造物の中の力、あるいはあなた方が神と名づけるものの存在を信用することを学ばなければなりません。地球人は神とよぶこの本質の概念をほとんどもっておりません。われわれはこの言葉をよいとは思いません。しかし、あなた方のつけた名前は決して重要ではありませんから、それはあまり重大なことではありません。しかし、実際にこれは宇宙を透過し、銀河系を透過する偉大な力です。人間の概念とこの力は創造物のすべてにわたって各個のものに広がります。人間は、あなた方が神とよぶこの偉大な力の延長線上のものにすぎません。あなた方はこれの一部です。そして、この偉大な知能はすべての男女や子供に作用します。人間はそれにかれの身体を支配させることを学ばなければなりません。また、それを表面に押し出して、よいこととして表現させること、およびこの偉大な力がかれを通して作用するという実感に到達しなければなりません。それは、すべての創造物を通して同様に作用します。それは人を差別待遇するものではありません。それは賞したり罰したりはしません。

この偉大な宇宙力は法則によってのみ作用します。そして人間は法則によって作用することもあり、かれは法則によって作用しないこともあるでしょう。ただ法則の反作用を通してのみ人間は賞をうけたり、罰をうけたりします。もし人間がこの惑星で進歩を望むならば、この時にこれらの実感をもつことが非常に必要であります。なぜなら、人間はかれ自身の努力、かれ自身の経験によってのみ成長できるからです。もし、かれがこれらの経験によってのみ成長しようとするならば、一つ一つの経験はより偉大な理解への踏み台となるからです。一つ一つの経験があなた方にその通りのことをもたらすものだとの教訓を学ぶように心がけて、これらを積極的に観察して下さい。

〔訳者注：以上の各文献をみてお気づきの読者もおありと思うが、通信されてきた日付がいずれも 1960 年前後に集中している点である。実は 1960 年という年はサイ科学的にみて極めて重大な年であった。つまりこの年に地球が天位転換という操作を加えられたからである。これはどんな操作かというと、在来より高い波動の宇宙エネルギーが与えられることにより、天位昇格の準備段階に突入したということである。もちろん、大多数の地球人はこのことに気づいていないし、筆者のように浅学非才のものが今にわかにもその全貌を語ることは不可能に近いことであるが、サイ科学の進歩と時間の進行とが皆さんの前に明らかにするものと信じている。〕

彼等は「宇宙の理」とともに在るが故に
己自身に対して強く生き
善悪を超越して正しく生き
笑貌を以て明るく生き

信頼と互譲の麗しき心なるが故に
我なく
競うことの愚かさを知るが故に
宜しからぬ欲心なく

人類皆一体なる真理を悟るが故に
皆仲良く相和して
森羅万象悉く
宇宙創造の大神様より発したる
大愛の波動の変化なるを悟るが故に
無限の感謝と共に暮すなり

昭和 54 年 7 月 5 日未明 神示
(「宇宙の理」誌 Vol. No.4 より特別許可転載)

35. 真理と理解の不可分性

Oxal : 1959・11・9

いいですか？ 理解はゆっくりとやってくるものです。それは自分で使ってみて値打ちの分かるものですから、自分たち自身の一部にしてしまわなければなりません。大多数の人は真理の断片を採り上げ、それを中心に哲学を築き、それを種に大きな信奉者を集める嫌いがあります。しかし、真理というものはそれ自身が証明すべきものですから、それを証明する必要はありません。現代のあなた方の宗教団体はこの形式をとっているために、かれら相互に分離・反目しているのです。各宗教団体やその信者はそれぞれの真理をもっていると信じています。間もなく地球人たちは学ぶに違いありません。真理と理解は努力によってのみ得られ、個人の努力を通してのみ得られることを。

36. 汝自身の理解に内在する真理

Oxal : 1958・12・1

あなた方の救世主はかつて次のように言ったことがあります。「真理を求めよ。さらば真理は汝を自由にするであろう」と。これはあなた方の宗教史にのべられていますが、一つだけ省略されています。それはつぎの文句です。「汝自身の理解に内在する理解を最初に求めよ。それは把握して利用できるものである」。なぜならこの方法によってのみ、あなた自身をより高い真理に導くからです。換言すれば、一度に一段ずつ昇ることです。あなたの持っているものに精通しなさい。そうすればもっと向上できるでしょう。なぜなら、真理はあなた方の生活で実践できなければ値打ちがないからです。真理があなた方に恩恵を与えなければ、何の意味もありません。

37. 同胞理解が先決

SL : 1960・4・4

人間というものは、かれの同胞を理解するようにならなければ、人類全体として精神的に偉大な成長をとげることのできないものです。この理解欠如はあなた方白人と黒人の間に存在するだけでなく、あなた方の国内の人種間にも存在しています。一度人間がかれの同胞、かれの信頼、かれの理解、かれの真理を是認するようになれば、かれは理解の関門に達したとみてもよいのです。

38. 解釈の誤りによる相互誤解

Mr. R : 1958・1・25

地球人の大多数の誤解や誤った概念は解釈の誤りからきています。つねに創造主の法則（複数）を解釈するに際して、その法則は宇宙全体に通用できるほど融通性のあるものでなければならないことを忘れないで下さい。友よ、ここが鍵です。今や、地球人が宇宙の法則を学習し、理解すべき時がきたのです。聴くべき耳をもち、視るべき目をもたない人々は惑星とともに新時代に入れたいのです。偉大な叡知を使わねばなりません—それを聴き、それを視たとき叡知を知りなさい。あなたの常識に固執してはなりません。なぜなら、それらの常識の多くは、法則を理解し、通用するために変更しなければならないからです。過去においてあなた方に多くのものが与えられました。地球人のために、あなた方の惑星と一緒にはたらいっている兄弟は、あなた方が理解し、適用するために多少努力を要するような形で、そして必然的な形で多くの真理をもたらしました。われわれは非常に多くの言葉でこれらの多くの事実を語る事ができて、つぎのように言います。「これがあるべき道筋です—あなたはこれを信ずべきです」と。しかし、兄弟よ、あなた方自身が選択すべきですから、この言い方はわれわれの採らない所です。それはあなた方自身が実証すべき選択です。何度も繰り返した言葉をもう一度いいます「あなた方のためにわれわれは選択するわけに参りません。これはあなた方のやるべきことです」と。今のべたことをよく考えて下さい。

【訳者注】ここに書いてある文章も何の変哲もないようにみえて、一皮むけば重大なことをのべているのである。新時代というのは人類が数千万年来経験したことのないような天文学的現象のことであり、在来の常識で考えられないことである。だから、そのような常識に固執してはならない、というのである。創造主の法則とは、本誌「地球外文献」の最初に紹介した「優良星界人の暮し」の随所に発見されるもので、「宇宙の理」として同名の雑誌に毎号解説されている。また、「あなた方の惑星と一緒にいたっている兄弟」は渡邊大起さんの著「オイカイワタチ」にでてくる「ワンダラー」のことである。これらのことを知らないと、この文章は平凡な内容として見過してしまふ恐れがある。科学者のつねとして自分の知識や常識に過大な自身を抱き、これに固執する傾向がある。大いに戒心し新時代に対処しなければならない。

39. 調和関係には経験の積み上げが大切

C : 1959・9・8

しかし、地球人たちの今日の立場で、第一歩が愛であること一われわれの目にみえる限りにおいて創造の完成を達しようとする一を繰返してのべなければなりません。これは時々不可能のように思われるかも知れませんが、しかし、われわれの高い領域、つまりより高い意識に入りこみ、それと調和関係 (atoneness) を保つにつれて、この調和関係の感触を実感しはじめます。そして、この偉大な沈黙の中で、この調和関係に慣れるにつれて、一つの表現しかない事実とその理由の実感を身につけはじめます。本当に、本当に、愛する者たちよ、あなた方はすべて神と女神です。それは時間の問題です。

われわれ一同はめいめいに現時点より出発し、仕事を始め、建設にとりかかりましょう。どんな局面に対しても愛と理解で立ち向かいましょう。われわれの進路に現われる何物も、偶然によるものでないことを知りましょう。われわれが学習すべき経験がどんなに些細なものであっても、経験によってのみ学習するわけであって、他に方法はありませぬ。愛する者たちよ、経験はわれわれの唯一の先生です。わたくしが、ある種の離れ業をやりとげる方法を説明しようとして、あなた方に何時間お話できたとしても、それをやりとげるまで、あなたがたは知らないのです。あなたがたは、わたしの言ったことを知るだけなのです。ですから、それぞれ直面する経験に対してのみ感謝するよう心がけましょう。そして、もしそれを通して学習すれば、その経験自身をだれも繰り返そうとはしないのですから、各々の経験の中に適当な教訓を発見するように努めましょう。

【訳者注】何度も繰り返すが、子供っぽい教訓と受け取らず、よく味わって読んで頂きたい。さもないと、サイ料学者にとってこの重大な時期に怠慢の謗りを免れないであろう。「サイ料学」4巻3号第20項「調和関係 (atoneness)」がここでもでてきた。多分読者が字典を引かれても atonement があって、償いとかが、贖罪 (しょくざい) という訳しかないはずである。最近小学館・ランダムハウス出版の英和大事典でも、ウェブスター出版で45万語以上もある米国字典にも atoneness という字は見当たらない。宇宙人はどうしてこんな稀な単語を知っているのか、筆者は不思議に思った位である。やっと、上下二巻に分かれた Doubleday and Company, Inc. 出版の The World Book Dictionary に atoneness があって、harmonious relationship という説明がついていた。しかし、前記 atonement はアトーンメントと発音されるのに対して、この場合は at-one-ness (アット・ワン・ネッス) なのである。そうすると、調和関係と訳しても、まだ意味が弱い感じで、むしろ完全一体性とでも訳さないと、宇宙人の真意を伝えたことにならないし、上記第39項の文章も完全には理解できない。

42. 積極面を助長し、消極面を排除せよ

Oxal : 1958・10・17

愛する者たちよ、汝らの目はつねに創造の栄光を視るよう単純であれ。あなたの思想も、あなたの観察も、好ましからぬもの、最高でないものに向けてはなりません。あなたの意識の積極面に保ちなさい。あなた方の惑星の絶え間なく増大する振動速度は人類を自身の内部より脱出させるよう作用しつつあります。かれの本来の姿を提示させるよう作用しつつあります。今より後、あなた方自身を隠すことは容易でなくなるでしょう。あなた方にとって自身を観察し、認識することができ、必要によっては、何かを実行することも起こるでしょう。それで積極性も生ずるが、また消極性も生ずるでしょう。ですから、あなた方の歌にあるように「積極面を助長し、消極面を排除しよう」といつているのは当たっています。なぜなら、そうすることによって、あなた方はこの表現にあるより高い意識状態に達することができるからです。

時間が短いということは今まで何度もいわれてきました。友よ、その通りです。なぜなら、あなた方はこの短い時間になすべきことが沢山あるからです。しかし、愛する者よ、最大の事業はあなた方自身に関することであります。なぜなら、この時点ですべてのあなた方にとって最も重要な部分は理解を深めること、愛を育むこと、あなた方自身を理解すること、およびそうすることによって、あなた方の友人を理解し、愛するようになるからです。この惑星に到来する事件は大きな理解を必要とします。もし、あなたが光の中の作業員となるはずならば、言葉を表現することができなければなりません。なぜなら、例示によらないで、どうしてあなたは他人に教えることができますか？ あなたが自身で訓練できないならば、どうしてわたくしに原理を教えることができますか？

43. 宇宙連合に加盟すべき新しい人種とは

Oxal : 1960・3・31

惑星地球は一つの惑星として一緒に住み仕事をするのを覚えなければなりません。なぜなら、間もなく銀河系の一部として参加することを覚え、連合の中の他の惑星たちと共同して仕事をする準備をしなければならないからです。惑星地球はかなり永い間ひとり隔離していました。今や他の惑星と一緒にになり、進化の道程で分担すべき時です。地球人類はこれらのことの重大性を考えねばなりません。そして愛する友よ、その実現のためにあなた方自身も役割をもっているのです。時間は短く、やるべきことが沢山あります。

地球の人類は新時代に入ったときに新しい人種となるでしょう。あなた方の系に向かって動きつつあるか、動くかも知れない新太陽によって人類が照射されるエネルギーは人類をより高級で、より洗練された人種とするでしょう。

【訳者注】ここで連合というのは宇宙連合 (Universal Confederation) のことである。銀河系内の3分の1の星はこれに加入しているということである。宇宙進化の最終目標に向かって進むかぎり、各員は自由である。もちろん、ある種の法律・規則のようなものもあるらしい。地球は今までこれに参加をする資格がなかったが、本文にあるような理由で近く参加を認められることになりそうである。それにつれて、本誌第4巻第1号の第3項にのべた双太陽系で御承知のように新太陽で照射されることになるのだが、多くの情報を総合すると、現在の太陽からも、準備段階として、1960年以来、徐々に高い波動が送られているということである。すでに少数の人々はそのことに気づいておいでになる。その意味でも、1960年という年は極めて重大な年である。

44. 地球人は間もなく宇宙船で他の惑星へ

Oxal : 1960・9・29

わが友よ、あなた方の惑星の人々が極めて近い将来に伝えられようとしている知識を受けるための準備としてまだまだやるべきことが沢山あります。地球の人類はかれの考えるよりずっと早く他の惑星の上に立つことになりましょう。現在あなた方の世界政府（地球内の世界ではない）は、月や近くの惑星に旅行するための宇宙船を準備しつつあります。地球よりの最初の訪問者が持ち帰る情報は大衆にとって大きな衝撃になろうとしています。

あなた方の文化においてかつての時期におけるよりずっと早く変化がやって来つつあります。そして、それは刻々とはずみがついてきています。あなた方の大多数は変化のため準備することにより、来るべき変化の準備を助ける立場にあります。これは、あなた方が、受ける準備のできてない概念をもった人々を強制するという意味ではなくて、いろいろな方法で種を植えつけ、変化に際して恐ろしい打撃をかれらに与えないようにかれらが準備できるということである。

45. 新訳および旧訳聖書の解釈

Yaum : 1962・1・16

人類はつねにかれの進路を選ぶ権利をもっているものである。あなた方のバイブル史に書かれた予言を通読

し、それらを現代語で解釈しようとするのはあなた方にとって非常によいことだと思います。そこに書いてある予言をすべて読みなさい。熟読して、現代語で解釈して下さい。これらの予言は昔の予言者によるものであり、当時としては最も適当な言葉で発表されたものであることを認識すべきであります。しかし、あなた方が少しく考え、少しく瞑想しさえすれば、きっと現代の条件に適用するように意味を理解できるでしょう。しかし、予言というものはすべて条件つきであることも考えて下さい。旧約聖書の予言と同様に、新約聖書の方も読んで下さい。両方を読むことです。なぜなら、旧約の予言は、後年の聖書と同様に人々に本当の予言を示しました。しかし、あなた方に理解できる現代語で解釈するように努めて下さい。

また、だれも正確な日時を知らされていない、とよく言われています。そして、わが友よ、その通りです。なぜなら、これらのことは人類に知らされていないのです。この物理的な世界、すなわちこの惑星に住む人間はだれも時間を知らされていません。そして、日時と事件はそれに関する人類の行動にかかわっていることを、わたくしは、自分の胸の中で知っています。

46. 地球終末の災厄は避けられるものか？

Oxal : 1962・10・19

あなた方の宗教史の中で、あなた方の文化終末の日におこる多くの事件が予言されています。多分、その表現方法は不適切であるかも知れません。多分わたくしならつぎのように言うべきでしょう。あなた方のより高い文化の進化において、大きな災厄があなた方の身にふりかかることが予言されている、と。しかし、一方においてわたくしは、人類はこれらのことを避ける機会を与えられて予言されていることも付言したいのです。予言というものは必ずしもその通り実行されるものと限りません。なぜなら、人類の運命は完全にかれ自身の手の中に収められているからです。いいですか？ 予言はパターンの現実化によって発生するのですが、しかし、パターンは変更が可能ですし、わが友よ、地球の人々はそれらのことを変更し、避ける能力をもっているのです。

すでにのべた通り、あなた方の現代文化はバランスの中にかかっており、どちらに振れるかは地球人類次第でまゐるでしょう。もし、大多数の地球人たちが、隣人に奉仕する道、あるいは愛、光および、平和の道を選んだとすれば、あなた方の文化はこの惑星誕生以来、最大の進化前進をみるでしょう。あなた方の文化は過去2回このような状態に上昇し、下降しました。ここで再び下降しますか？ それとも、あなた方は、今度頂上を過ぎて、人類総同胞を本当に実現しますか？ 地球の皆さんよ。どちらを選択するか、皆さんの手中に握られているのです。太陽系の他の惑星の助けを受ける心構えさえあれば、いつでも、他の惑星の人々は可能なあらゆる手段でお助けする準備をしています。すでにわれわれは地球上の権力者たちに援助の提案をして拒絶されました。それでもなお、もし受け入れて頂けるなら、われわれは援助の手（友情の手）をさしのべる用意があります。

47. 巨大な変化が諸君の海底でもう始まっている

D. K. : 1959・11・16

さて皆さん、ご承知のように、惑星地球は今大きなチャンスを迎えています。それは、この時点における過程のみならず、過去何年かにわたってそのような過程をふんでいるのです。この時点で起こっている変化の大部分はあなた方に見えませんが、わかりません。なぜなら、この大部分はあなた方の海底で、陸地のある部分の表面下で起こっているからです。大洋や海の表面あるいは海床で大きな変化が起こっており、適当な時期に表面の実際現象となるでしょう。

わたくしの了解する所によると、惑星地球で起こりつつある変化は、一大天変地異としてやってくるわけではなく、あなた方の時間で多分30年とか40年といった永い期間にわたって、じわじわと一連の異変としてくるでしょう。そして、その期間内に地球表面に多彩な変化が発生するはずですが、つけ加えますと、これらの事件を通して、アメリカ大陸および合衆国は相当の変化を蒙るでしょう。アメリカの東岸も西岸も大きい変化を受けますが、とくに西海岸の方の変化が大きいです。ヨーロッパ大陸でも、アジアでも大きな変化が起こるはずですが、これら一連の変化で、多くの生命は絶滅します。それでもわが友よ、これは新時代の準備のための清掃過程にすぎないのです。これら多くの事件が起こったとき、何人かの個人は新しい認識に目覚め、真理と理解に向けて新しい探究をはじめようになるでしょう。

48. 物質だけ考えてはいけない

Mr. R : 1958・10・17

ねえ皆さん、われわれが地球人の思想書を読んだとき、あまりに唯物的なのをみてびっくりしましたよ。道を歩いている普通の人々はただ物質的なことだけ考え、精神的なことは考えにでてきません。かれは人生にとって最も大切なことには、一切一顧だに与えません。しかし、地球上の人々は次第に物質的なことの無価値をほんのわずかに考えはじめています。これらは実際にいかに重要でないかということです。これらのことが無価値で、かれらの価値が急になくなったとき、地球の人々の大多数に強い衝撃となろうとしています。なぜなら、そのようなことになる日はそう遠くないからです。あなた方の貨幣制度は現在ぐらついています。その没落はそう遠くないでしょう。なぜなら、そのようにつくられた制度は永続きしないからです。

しかし、愛する者よ、これらの事から人類の兄弟の愛が芽生えてくるでしょう。なぜなら、人類は隣人を利用するよりも隣人に奉仕して生きる必要があるからです。人類はその隣人との調和関係を実現すべきです。人類はその兄弟と同様に全体の一部にすぎないことを知るべきです。人類は創造物全体の小さな一片でありますから、われわれすべては一つです。それゆえ他人を愛さなければなりません。

49. 要するに各自の自覚が先決

Hatton : 1959・9・4

わが友よ、地球の人類はこれらの事を大衆によって、こんな短い残り時間で完了するようには見えません。かれら自身が生き残るための唯一の解決策は各自が個人的に完成することのように見えます。時間は地球人類の失策のために大巾に短縮されました。それゆえ、残る問題としていかに迅速に各人が対応するかにかかっているように見えます。この点、皆さんよくお分かりのことと信じますので、詳細に立ち入る必要を感じません。惑星地球の転移において何が行われるか、よくご存じのことと思います。

この時間短縮の責任者たちは、かれらの頭に大きなカルマの負債をおかれました。これは残念ながら、われわれでその事情を変えることができません。どの道を行くべきかは各人の責任であって、だれもそれを変えることができませんから、人々自身の準備する機会を与えるため、なるべく早くこれらの事情に目覚めさせる必要があります。

50. 転移後における地球上の様相

Oxal : 1960・6・2

時移り、周期が回り、惑星としての地球はその衛星とともに宇宙空間の中の新しい波動、そして新しい位置に移行しなければなりません。大きな太陽の変化、すなわち滅多に起こらないような変化の周期があなた方の系で行われようとしています。以前にものべたように、この時期にあなた方の系にやってきたのは、この変化中にご援助するのが目的です。

惑星地球の進化が遅れているために、この変化は一そう困難なものでしょう。精神的理解が衰退していますので、地球にとって変化はより困難であります。太陽系の中で進歩した、そして事情を理解している他の惑星にとっては何の困難もなく、われわれと同様に、ただ地球とその住民たちのために可能なかぎり容易にしてあげようということに関心があります。

地球上の人口のわずかのパーセンテージの人しか隣人愛、正義、理解、平和の新時代に移行できないのが残念です。なぜなら、転移が終われば、惑星地球はもはや前と同じではないからです。ご承知の通り、生命は存在せず、むしろ愛と理解の雰囲気が存在するでしょう。人類はその同胞を理解し、知悉すべきです。人類は全体のために生活すべきです。人類の努力はこの方向にむけられるでしょう。人々は互いに他を滅ぼすようなことはもうなくなるでしょう。正義の新時代はひろがり、太陽系はすべて変わって新しい様相を呈するでしょう。

51. 文化大躍進を自前にして

DR : 1961・11・3

わが愛する友よ、惑星地球上で行われる、来たるべき大変化に備える必要があることについて、あなた方がどれほど真剣に考えているか、疑問に思っています。地球外生命領域にあるわれわれは、惑星地球と太陽系のための非常に大きな前進を考えているのです。あなた方の中には、そんな変化が起こるはずがないなどと言っている人々のあることもわたくしは知っています。しかし、わが友よ、あなた方にこれらの大事件が起こり、目の当たりに見るであろうことをはっきり申しておきます。あなた方は所有する物理的・化学的肉体をもって、あなた方のすべてはこれらの大変化をここで目撃するはずで、そして、現在あなた方が生命のどの段階にあらうとも、なお準備する必要があります。

化学的な肉体でこれらの変化を経験するあなた方にとって、より大きな自覚と準備が必要です。いわばより有利な立場からみているわれわれは多分、この事件あるいはいくつかの事件（複数）の広大さのより大きい見通しをもったはずであります。人類は、もし残るつもりなら、科学的にも、精神的にも、全体として新しい意識をもたねばならないし、またもつことでしょう。人類は宇宙のより大きな知識と理解を得るために意識を拡大し、つねにより大きな量の知識と智慧を得るために意識を拡大するようにすべきです。人類は宇宙法則の作用を理解し、これらの法則を熟知するよう学習すべきです。また、人類は自身の中に、自身と隣人のために大きなエネルギーと法則を利用する力、智慧および理解が存在することを学習すべきです。

しかし、友よ、これらのことを軽く考えてはなりません。しかし、むしろ理解のため探究において敬虔に、深刻に、そして誠実にならなければなりません。その理解によって、あなた方は、地球と事件の準備をする人々の上に開花しようとする新時代をもたらす変化に対応できるようになるでしょう。事件のいくつかはあなた方にとって愉快なものでないかも知れませんが、しかし、あなた方の意識と自覚を拡大するならば、あなた方は不愉快を克服し、地球の変移において誠実で役割を演じようとする人々に大きな援助が待っています。

これらの期間が過ぎて、文化の残留がこれらの事業を完遂した人々により構成されたとき、地球上には現時点で考えられないほど、はるかに高度の文化が建設されるでしょう。残った人類は、惑星地球が惑星連合の一員として所を得、すべての創造物と共に人類が一体となる大きな人類の友情で結ばれるのを見とどけようとしている偉大な誠実な存続の助けを通して、人類の新しい種族を開花させるでしょう。そして、この実現は、あなた方に可能な何物にも優るはるかに価値あるものです！

52. “光”の儀式（宇宙エネルギーを受けるための）

Warren : 1961・7・21（金）

わが友人たちよ、平和でありますように：あなた方めいめいは自分たちの中に高級指導者をもっているのです。ですから、われわれは、もし皆さんが胸襟を開くならば、リラックスによって大きな幸福をもたらすエネルギーを受けられるようにあなた方を指導しようとしています。各自の知性はこのエネルギーを集中するのを助けますから、もしあなた方がわれわれとともに暫時我慢して下されば、もっと具体的な方法をお教えしましょう……（2～3分歌声がきこえる）

さて、親愛なる皆さん、背骨を延ばして、垂直に坐りなさい。そうすると、あなた方の廻りに宇宙エネルギーが集中した形式で発生し、精神的にも、物質的にも、霊的にもあなた方を改善できる何ものかを適当に自分自身の中に取り込むことができます。これはあなた方に大きな幸福と平和の感覚をもたらすものです。さて、真直ぐに坐ったとき、このエネルギー源泉が宇宙に広がり、高い宇宙からあなた方に達してくるのを見つめなさい。息を深く、腹の中まで吸い込み、軽く保留してからリラックスして下さい。これを約一秒間隔で実行して下さい…（実行）…この偉大な宇宙エネルギーを体内に取り込んだとき、身体各部の細胞や、繊維に流れ込むように感じなさい。それを喉や肺や腹や足や手等、身体の各部に導入して下さい。

自分の体中に行きわたるのを見届けなさい。……（実行）……心を受身の状態のままにしなさい。創造に対する感謝と、謙虚と尊敬の念を起しなさい。これを私がいうまで続けなさい……これを自分たちの中に引き込みなさい……（約5分間実行）。そう、それでよいのです。わが友達よ、あなた方各自は受けようとする熱意に応じて、受けることができたと思います。

わが友人たちよ、平和でありますように。

【訳者注】 この具体的指導は簡潔に要点を述べているだけであるが、内容としては大変貴重なものだと思う。ここで宇宙エネルギーというのはヨガでいうプラナのことと想像される。空気中の酸素を呼吸するだけでは別に生理作用以上の効果はないが、それに吸着された宇宙エネルギーを体内に取り込むことで大きな精神作用を

呈するようになるのである。その際、背骨を真直ぐに延ばすということは座禅やヨガの行でも同じように要求され、これが効果を一そう大きくするのである。われわれの肉体には目に見えない第二の有機的組織が微妙に構築されていて、このなかで、プラナを吸収し、循環、同化、排泄等の操作をしているわけである。この事実に関して在来科学は一切関知しないために多くの説明できない現象が残されているのに対して、サイ科学はそれを認め、それによって人類の英知を一歩も二歩も前進させようと努力する。

サジェストペディアという画期的学習法もこれからヒントを得て生まれた副産物である。本文にある呼吸の周期が一秒というのは、いかにも短いような気がするけれども、サジェストペディアでは、2秒で吐き、2秒で吸い、4秒間空気を体内に保留し、また同じ操作を繰り返すことに統一されている。このように、空気を体内に保留している間に、空気分子に吸着されていたプラナを体内の第二組織に開放し利用するものと考えられる。だから、その間にプラナもいろいろな形に変換されてゆくのであろうと思うのである。(S)

53. 生と死 Monka : 受信日時不詳

2008-08-17 Sun 03:32

わが兄弟姉妹たちよ、この宇宙というものの中には数種の力が存在することに気づかなければなりません。いろいろな属性、例えばいわゆる創造物の中に透過する光線のようなものがあります。

もし、われわれの目をその波長に合わせ得るならば、多種多様な色のあることがわかるし、われわれやすべての物質の周囲にあるエーテルというものを突進する多数の輻射エネルギーのビームにも気づくでしょう。

当然のことながら、これらのエネルギー・ビームには源泉があります。

われわれの限定された概念の範囲内ではこれを“無限”と呼んでいます。

われわれの側で、もしこの言葉の本当の意味をつかめたとしますと、この“無限”の中に“神の意識”なるものがあるのだということを悟るに違いありません。

これらのエネルギー・ビームは“思索”の白熱した場から放射し、すべての空間というものの中に発散して、すべての物質粒子に衝突し、それらの粒子に“振動”および“生命”の形態を分け与えます。

わが兄弟姉妹よ、生命の本質は“神の思索”なのです。

この思索がいろいろな形の物質に作用するとき、運動を生じ、その運動がまたいわゆる活動、つまり生気を作りだすのです。

原子は核を中心に運行を始め、分子は物質に新しい“神の表現形式”を実現するために、結合と再結合を繰り返します。

物質が宇宙の中に放散されている微妙な影響にもっと敏感になったとき、天賦の才が与えられ、間もなく“物質の感覚”として知られる属性となります。

それから間もなく、われわれは物理的な物質の最高密度として知られているものを発見します。

それは鉱物でありまして、生命として知られているもののパルスとともに移動し、反応し、振動する新しく発見した活動でゆらいでいるのです。

これら鉱物の中に含まれる意識は興奮し、目覚め、そして思索自身は外に向って突進し、他の思索や、他の形式や、放射物と衝突します。

そして生命のない鉱物はゆっくりと自覚を獲得するのです。

生命は突如として新しい意味をもってきます。

そして、いわゆる進化の第一段階に達するのであります。

生命のない鉱物でも思索を送れば自覚のある生命をもつようになります。

自覚の引金になる最初の思索はそれを何回も何回も送り、新しく発見された自覚の経験を味わうことであります。

だから鉱物というものも進化するのです。

それは今や植物というものになります。

それからは蔓がでて植物が地下の経験をため土の中にのびるだけでなく、上空から放射する素晴らしい放射線の経験をためるために若芽を上の方にも伸ばします。

そして、わが兄弟姉妹よ、より未開発の人からみれば、進化の奇蹟と呼んでもよいようなものを目撃しました。

なぜなら、今や生命のない鉱物ではなくて、生命のある植物を見ているからです。

生命のない鉱物のやれなかったことを成就できる運動と生命に関することを見ているからです。

また、それ自身を広げ、生長という過程を通り、より大きくなり、その下より養い、上より流れでて、それにエネルギーと生命を与える放射線につねに全体を露出していることを見ているからです。

それですから、植物や進化を通して、意識の形は拡大し、生長します。

最初の頃、かれらは単に小さな苔や地衣の形にすぎませんでした。

かれらは草木を通して、灌木へ、それから高い木へと進化しました。

かれらは樹木と呼ばれるものになりました。

樹木、それは上へ上へと延び、つねに創造の自然法則に従って、つねに成長し、かれらの存在の源泉により近づこうと試みています。

それは腕を上を伸ばし、上からなおも流れてくる神の放射を受けようとしています。

それから突如として、もう一つの変移が行われます。

なぜなら植物界として知られている進化の間に、一つの変移が行われるからです。

われわれは緑のものの成長において、その物質が発散されるのを見ます。

それは、ガスの結合として知られています。

しかし、皆さん、ガスはまた意識でもあることを想起して下さい。

さてそこで、この植物界を離れて新しい環境に解放される意識の稀薄な形が、大気として知られています。

そして、今後は光の放射エネルギー自身によって駆動され、どんどん上へ広がり、分子つまりガスの粒子はより多くの推進力を受け、さらに大きな運動と自覚を受けるために外へ外へと広がります。

また、これらの粒子は神の意志に従って、宇宙空間を通して、その中で最も進化のできる媒質を横切り、やがてかれらの意識がある点に到達するため成長するのです。

すると、ガス分子がエーテルの中で雲になるのを発見します。

そして、これらの雲自身は既知の法則に従って他の属性に変わり始め、かれらは今度は新しい物質の創造となります。

わが兄弟姉妹よ、そして今一つの新経験を準備としての意識自覚の点まで進化が到達したのです。

そしてそれ故に、啓蒙の神の源泉から強大なエネルギー放射がエーテルを通して到来し、質量とエネルギーとが再結合されます。

そして、今やわれわれには生命ある物質として知られているものが与えられます。

それは、わが兄弟姉妹よ、新しい意識の始まりです。

それは“神の時間表”に従って、これら最新の振動から生れたばかりのものです。

“人類”ができたのです。

“人類”の自然の生息地である所の空間のピロードに抱かれた幼児です。

わが兄弟姉妹よ、なぜなら人類は陸上動物ではないのです。

人類はエーテルの動物です。

なぜなら、エーテルは人類の本質だからです。

人類はただ、大宇宙のかなたから、つねにかれを招き入れようとする生活をかれの意識が拒否するときのみ地上に存在するのです。

そして今、兄弟よ、人類が拒否するゆえに、偉大な存在物は本来の思索の雲の中に形を示すのです。

この偉大なものはゆっくりと物質化します。

かれは純白の軟らかく垂れた衣装に身を包み、見るもまばゆい気高い姿になって遠くに現われます。

かれは手を振り、ゆっくりと、しかししっかりと歩き始めます。

かれは時間の廊下を通り、数百万の星で敷きつめられた街道を歩きます。

かれは空間を通り、時間を通してかれの創造物を見るためにやってくるのです。

かれは、その本質が愛であり、思索であり、考察であり、大きな慈悲心である所の偉大な存在物です。

かれがその手を伸ばせば、一大平和が解放されます。

それはかれの指から流れでてきます。

それはかれの目から強烈な広がりをもって輝きます。

それはそれ自身を包み、神の存在を受けいれない迷える者たちを融和させます。

しかもこれらの力はけっして暴力や、怒りや、憎悪などの考えから発したものではありません。

これらは純粹の愛や最大の温情からでたものであります。

恐怖で心がおののいている者も、大きな愛と美の洪水を受けます。

真理というものを認めなかった者たちの真只中に新しい目覚めの暁がやってきます。

なぜならこの偉大な者は今や自身の表象を新しい創造につくり上げ、かれはこの新しい形の実体を宇宙の多くの場所にある全部の生息可能地域に分配します。

そして宇宙の意味に新しい言葉を導入しました。

それを支配者と呼びます。

そして支配者たちは大きな喜びと愛をもって、かれらの父の創造物に臨みます。

そして、かれらの実体そのものも直接出ていって、かれらの委託物や、子供や、自分の発展したものたちと通信し、地平線上に新しい曙が現われます。

わたくしはどうとう死について説明しませんでした。

なぜなら、わが兄弟姉妹よ、すべての真理の中に死はないのです。

ただ、つねに上に向かって次第に螺旋状に登ってゆく意識だけがあるのです。それは広げた腕と心で源泉の実体と相互作用をするのです。

わが兄弟姉妹よ、わたくしはこの問題について皆さんの存在にふれ、大きな愛と大きな感覚をもって新しい理解を齎らしたとってお話しました。今や離れてゆき、あなた方の実体から去ってゆきます。

【訳者注】この文の表題「生と死」は訳者が勝手につけたものではありません。多分 Monka さん自身が冒頭にのべたものでしょう。しかし、現世の議論とあまりにもかけ離れているので、始めての方には何のことかお分かりにならないでしょう。とくにサイ科学の知識と天地創造が創造主によってなされたと仮定しないと、辻褄が合わないでしょう。その上、「生と死」と題しておきながら、死についてほとんど語らないのみか、そんなものはない、と否定するにいたっては人の意表をつくものといわなければなりません。また、訳は原文に忠実でありたいと心がけたため、少しくどいようでしたが、兄弟姉妹よ、との呼びかけは省略しませんでした。金星人はすべての惑星上の人類が、ただお一方の創造主からわかれたものと考えておりますので、男性に対してはブラザー、女性に対してはシスターと呼ぶ習慣です。(S)

54. 大ピラミッド

Clalla : 受信日時不詳

まず宇宙連合の銀河系調査船団は 45,600 B.C. に、地球上に前進基地と航空標識を建設する必要がありました。

アルデバラン星*の第3惑星からやってきた乗員たちは地球に接近し、当時大ピラミッド時代として知られていたときに建設を始めました。

巨大な御影石を大陸の中央部から切り出し、かれらの宇宙船で現在の場所まで運搬しました。

これらの巨岩を強力なレーザー光線**で無数の適当な形の小片に切断しました。

当時の部族民たちは空からの宇宙船を物語の中にある神の子孫が地球に降りてきたものと怖がったのです。そこで、われわれは彼らを怖がらせないようにすべきだと感じました。

地球上では大ピラミッドとして知られている建造物の中には、航空の目的で宇宙船の道案内をする数メガワットの総電力を放射する発電機を据え付けました。

このような建造物が原住民たちに強烈な心理的影響を与えたことに気づいて、何かもっと別の副次的な機能をもたせた方がよいような気がしたのです。

また、この頃各種族を安定させ、相互交流させる援助の目的で、各種族の進歩を調べる調査団を地球に派遣する必要が感じられました。

このことは、地球上の科学界で地球上各地に植物相や動物相の型の証拠が発見される理由ともなっています。われわれは強力な宇宙船を前面におしだして、定期的に地球を訪問し、もっと文化を進歩させる必要を知り、ある種の形響を与えることが適切であると考えました。

これらの考慮がふたたびピラミッドの中に払われました。

243 フィートの地地下にある地下室の直下に軸が沈めてあり、百万年以上古い最強力発電機群がそこに取り付けてあって、わが兄弟よ、今だに動作しているのです。

これらは2種類の目的をもっています。

その一つは、地軸の北極と南極に対するぶれ角度を除去しなければならなかったことです。

第2の目的は氷河時代の不安定さからまだ十分に回復していない地球各地の気候をもっと適度に保つことです。

それからずっと後になって、地球の科学者がケオプス (Cheops) あるいはクフ (Khufu) として知っている者がその奇観に当惑して、元の形より少なくとも外観を変更すべきであると考えました。

数千人の原住民を労役に服させ、われわれの労作物の表面をもっと綺麗に仕上げるため、鈍鉄の厚板や樹皮を取付けました。

当時、頂上にある奇妙な金属が何であるかを知らないで、旅人が何マイルも遠くから見えるように磨いて光らせることに決めました。

これがつまり、ギリシャの作家たちをして、ピラミッドの建設者をケオプスと錯覚させたわけであります。民衆の知らない間に、われわれの正規の乗員がその設備に配置されました。

王妃の室として知られている元の計画にあるものは、実は星間通信室なのであります。
王の室として知られている場所には後で、地球上の人々にありがちな病気を治癒する工夫がされました。
われわれの仲間は当時牧師さんの姿をして、大衆から奇蹟と思われるような臨床実践をしました。
そして、この記念碑の基礎の下に隠された発電機の強力な動作によって、宇宙空間にエネルギーを放射し、多くの宇宙船をいつも誘導してくれています。
後になって、さらに8個のピラミッドが建設され、ナイル川の西岸に沿って63マイルにわたって都合9基が
ならんでいます。

われわれのピラミッドの正確な寸法に関しては、つねに地球上の人々を当惑させてきました。

そこでわたくしは今、初期の設計に用いた寸法を皆さんに公開しましょう。

それは必ずしも現在の寸法と一致しません。

というのは、元の建造物に対する人民の変更やファロス（Pharos）の燈台***の改造によるものです。

われわれの元の設計で基礎は一辺765フィートの正方形です。

高さは全体で486フィートです。入口は北側の基礎上正確に54フィートの位置にあって、そこから北極星の光が地下室まで324フィートの廊下を通り抜けて永久に差し込むように造られています。

わが兄弟よ、これはあなた方の祖先の民族のだれもやれなかった高等技術です。

これはまた、地球の本当の磁北の方向を示すものです。

これを建設した理由は北極星を中心にもってきて、地軸の動揺を軽減するように工夫されたものであります。

基礎面から243フィート下に、地球の科学者が永久に驚くような機械が据えてあります。

入口の通路は9平方フィートの断面積でありまして、そこから地下室を通して、さらに袋小路に終わる63フィートの通路が伸びています。

ある目的で袋小路になっているのです。

なぜなら、さらに9フィート先に準エーテル発電機****があるからです。

基礎面から72フィート上に1134平方フィートの床面積をもった王妃室があり、その王妃室のさらに9フィート上に現在の通信設備があるのです。

王室の下9フィートに、かつて、より高度の機械類がありました。

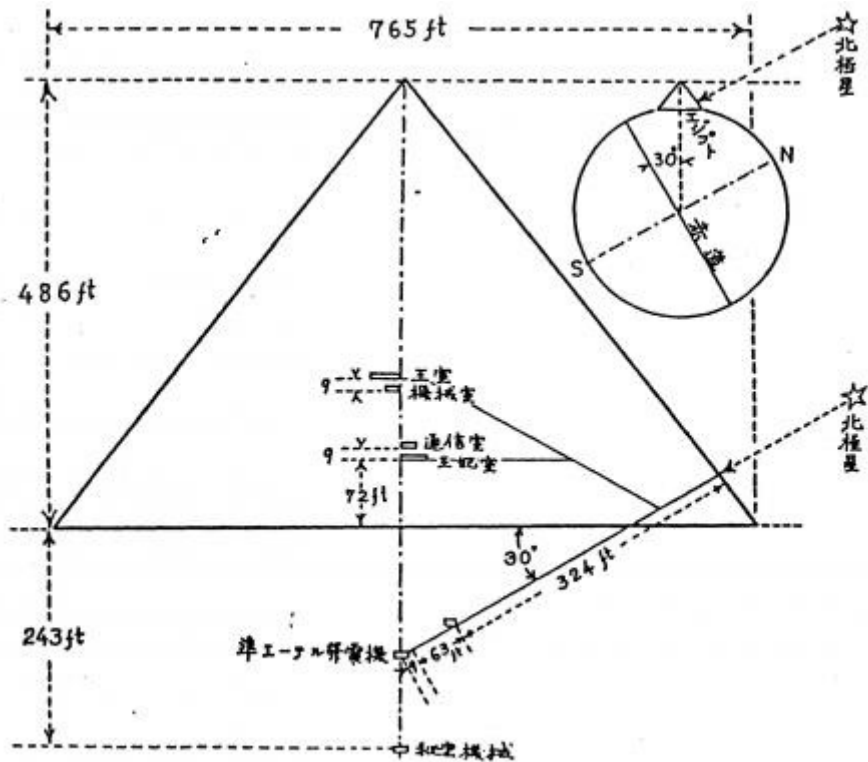
その他、地球の科学者の間で知られていない場所が三ヶ所あります。

わが兄弟たちよ、わたしが説明したすべての数字が9の倍数になっているのにお気づきでしょう。

その理由は9が磁気に関する数学の鍵となっているからです。

これを心の中に留めて下さい。

皆さんを歓迎します。



訳者注* : アルデバラン星(Aldebaran)はおうし座の中で最も明るい星でオレンジ色に輝く 1 等星です。PSIJ 月報第 45 号 (昭和 54 年 9 月) で説明したプレアデス星団はおうし座の肩の部分にあるのに対し、アルデバラン星は目の部分に位置しています。また、地球からアルデバラン星までは約 55 光年といわれています。これに対し、プレアデスは前記月報でのべたように 410 光年離れていますから、同じおうし座でもかなりの距離があります。

訳者注** : 原文では Huge と rays 間が空白になって脱落しています。これはテープレコーダーにテンソル・ビームで送られてきた情報を録音し、それをエディさんが耳で聞いてタイプ打ちするわけですから、どうしても不明のスペルがあることは免れません。訳者がこの部分に laser と挿入した理由は「宇宙人との遭遇」(1980 年徳間書店刊) の中で、プレアデス星人のセムジャーゼがスイスのメイヤーさんにレーザー銃を借りて使っている写真があるからです。これは高いところの木を切ったりするのに用いるとのことですが、巨岩怪石を簡単に切断するのはレーザー光線以外にないからです。しかも、rays と書いてありますから、金属のような刃物でないことは明らかです。

訳者注*** : エジプト北部にあるファロス島の大燈台は世界の七不思議の一つとされています。ただし、それは古代の七不思議であって、中世以後には姿を消しています。247B.C.に没したエジプトのプトレミ 2 世の治世下にアレキサンドリア港の入口に建設されたことになっているが、高さ 200 フィートの塔は 955 年ころの地震で損壊し、14 世紀の地震で完全に壊滅しました。その形はピラミッドのような角錐ではなく円錐形になっていますから、ピラミッドを改造したとすれば、ずいぶん手を加えたことになりましょう。

訳者注**** : これは sub - etheric generators を準エーテル発電機と訳したのです。ここでいう準エーテル発電機も、前にあるただ発電機といっても、すべて EMA モーターのようなものと考えて、当たらずとも遠くないものでしょう。EMA モーターについては、関英男著「アメリカ超常旅行」(工作舎刊) 141 ページに詳しく述べてあります。このように宇宙エネルギーをエネルギー源として利用するのでなければ、何万年も運転できるわけではないのです。

【 訳 者 注 】

さて、ピラミッドに関する研究はいろいろありますが、どんなに詳細な研究をしても、設計者の意図したデータ以上のものは得られないでしょう。

すでに PSIJ 月報第 42・43 合併号 (1979 年 7 月) の 3 ページに「エジプトのピラミッドは地球人の作ではない」という報告をしておきました。

今度それか裏付けされたわけです。

また、ピラミッドの寸法については同月報 37 号 (1979 年 1 月) の 4 ページに黄金分割による方法を説明しました。

さらに、底辺正方形の周囲の長さ、高さを半径として描いた円周とを等しくするような設計法についても説明したことかあります。

今回の地域外文献 54 によりますと、9 の倍数法というべき設計法でありまして、上記 2 方法のいずれにも一致しません。

黄金分割法とくらべてみますと約 0.07% の差があり、等円周法との差は約 0.21% でありまして、どちらかといえば黄金分割法に近く、上記 2 方法の中間にあります。

また、記事の内容に従って、大体の配置を図に示してみました。

ただし、30 度という角度だけは、訳者が勝手に挿入したものであって、原文のどこにも書いてありません。これは、エジプトのカイロが北緯 30 度にあることから、北極星の光がつねに 324 フィートの廊下を通り抜けるためには、地平線と約 30 度傾いていなければならないと考えたためです。

また、準エーテル発電機の位置も、文章の上からはっきりしていませんが、適当に記入しました。

王室、王妃室、通信室および機械室の他にも秘密室が沢山あるようですが、この文献だけではよく分かりません。

訳者の知るかぎり、ピラミッドの構造をもっとも詳細に分析したものは「カバラの真義」(霞ヶ関書房訳本昭和 53 年刊) の 220 ページと 224 ページに掲載された図面です。

しかし、この書物でも、紀元前 28 世紀にケオプスが建てたものとの推測を、王室の上の署名から下してしまして、宇宙人の作とまでは述べてありません。

この書物に記してある寸法として、底辺 756 フィート 8 インチは、この場合より約 9 フィート短く、高さ 482 フィートは約 6 フィート低いのです。

しかし、今から約 500 年前までは白い石灰岩に包まれていましたが、それを剥がして別の建物の材料に使われたと書いてありますから、多分その分、元の設計データより小さくなっているわけでしょう。

ただし、50 ページにもわたって大ピラミッドの記述をしている「カバラの真義」でさえも、花崗岩の巨石をどうして 482 フィートもの高さを持ち上げたかは謎だとしています。

以上で、手持ちの地球外文献は全部ご紹介しましたので、第 2 段階をひとまず終わることとします。

これらの地球外文献がどれほど貴重なものであるかは、時間の経過とともに次第次第にお分かり下さるものと確信しております。(S)